

ねんりんピックで輝く シニアの星



参加選手
体験談集

©2015 秋田県んだッチ N0058

第30回 全国健康福祉祭あきた大会

ねんりんピック秋田2017

秋田からつながれ! つらなれ! 長寿の輪 平成29年9月9日(土)~9月12日(火)

はじめに

ねんりんピック秋田 2017 参加選手体験談集の刊行にあたって

第30回全国健康福祉祭あきた大会（ねんりんピック秋田 2017）は、「秋田からつながれ！つらなれ！長寿の輪」をテーマに、多くの関係団体や開催地のボランティアの方々のご支援・ご協力のもと、2017年9月9日から12日までの4日間にわたって開催されました。

大会では、過去最多に並ぶ26種目のスポーツ・文化の交流大会、健康・福祉・生きがいに関する多彩なイベントが開催され、開催期間を通じ、延べ約52万人にご参加をいただき、盛大な大会となりました。全国各地から約1万人の選手らが日ごろの成果を発揮するとともに、競技仲間や地元の方々との交流、竿燈まつりに代表される伝統行事、自然豊かな県内の魅力を十分に満喫されました。

このたび、大会の様子を実際に参加された選手の視線からお伝えし、ねんりんピックの魅力をより多くの人に知っていただくため、体験談集を作成することといたしました。

体験談から伝わってくる選手の想いや大会を通じた人との出会いの魅力、日々の生活での心がけに、健康の大切さや心の豊かさについて改めて考えさせられます。心身豊かに生きることを体現されている選手たちだからこそ、皆様の今後の生き方について考える機会となるのではないかと思います。多くの方に読んでいただき、ねんりんピックで輝くシニアの素晴らしさを知っていただきたいと思います。

なお、体験談の募集にあたっては、各都道府県・政令指定都市の選手派遣団体に多大なるご協力をいただきました。ここに記して御礼申し上げます。

終わりに、ねんりんピック秋田 2017に参加された選手の方々、開催に尽力された秋田県庁はじめ関係者各位、心温まるおもてなしをしていただいた県民の皆様、協賛いただきました企業・団体に心から感謝申し上げます、刊行の言葉といたします。

2018年2月

一般財団法人 長寿社会開発センター

理事長 河村博江

CONTENTS

北海道・東北

秋田県

畠山美喜雄さん	ミニテニス	6
三浦耕太郎さん	ダンススポーツ	7

福島県

荒川一三さん	軟式野球	8
矢浪周作さん	ゲートボール	9

関東・甲信越

茨城県

打越麻姫子さん	ソフトバレーボール	12
塚原加代子さん	太極拳	13

栃木県

青柳早苗さん	マラソン	14
近藤 清さん	ソフトテニス	15

群馬県

小幡 普さん	ウォークラリー	16
中里見和弘さん	ソフトボール	17

千葉県

小池三江さん	グラウンド・ゴルフ	18
齊藤昭治さん	健康マージャン	19

東京都

小室正孝さん	マラソン	20
上林 功さん	マラソン	21

山梨県

梅本美枝子さん	ダンススポーツ	22
---------	---------	----

長野県

山崎和子さん	ゲートボール	23
--------	--------	----

さいたま市

倉又泰弘さん	サッカー	24
宮崎三津子さん	ペタンク	25

横浜市

入内嶋 茂さん	ペタンク	26
---------	------	----

東海・北陸

富山県

西嶋鈴子さん	ウォークラリー	28
末永正志さん	剣道	29

福井県

上嶋啓芳さん	剣道	30
阪口健一さん	健康マージャン	31

岐阜県

高橋照男さん	グラウンド・ゴルフ	32
--------	-----------	----

静岡県

川窪健一さん	弓道	33
杉山典克さん	ダンススポーツ	34

愛知県

奥村昌彦さん	サッカー	35
--------	------	----

三重県

林 眞市さん	将棋	36
山崎八重子さん	太極拳	37

近畿

滋賀県

反甫彰男さん	ソフトボール	40
岡崎幸子さん	ウォークラリー	41

京都府

清水正夫さん	マラソン	42
--------	------	----

兵庫県

横田 均さん	剣道	43
--------	----	----

奈良県

林 孝光さん	ゲートボール	44
--------	--------	----

和歌山県

西原哲男さん	弓道	45
--------	----	----

大阪市

岡本勝二さん	ペタンク	46
--------	------	----

堺市

小西サヨ子さん	卓球	47
橋本幸太郎さん	剣道	48

中国・四国

鳥取県

坂口美江さん	卓球	50
福島 覚さん	水泳	51

島根県

友村光男さん	水泳	52
松本京子さん	ペタンク	53

徳島県

森 弥生さん	マラソン	54
八木一夫さん	軟式野球	55

香川県

杉村範子さん	卓球	56
横山リウ子さん	ペタンク	57

広島市

山根繁徳さん	囲碁	58
--------	----	----

九州

長崎県

宮崎徳康さん	ゲートボール	60
--------	--------	----

熊本県

橋本和香美さん	弓道	61
---------	----	----

宮崎県

内田雅實さん	ソフトバレーボール	62
沖米田 孝さん	軟式野球	63

Information	65
-------------	----



ねんりんピック秋田 2017

参加選手体験談集
ねんりんピックで輝くシニアの星

発行日 2018年2月28日

発行所 一般財団法人 長寿社会開発センター

〒105-8446

東京都港区西新橋3-3-1

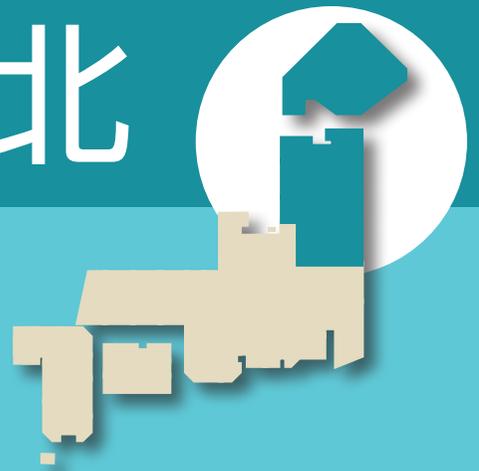
KDX西新橋ビル6階

Tel. 03-5470-6753

<http://www.nenrin.or.jp/>

※無断転載・複製を禁じます。

北海道・東北



秋田県

畠山美喜雄さん



ミニテニス

6

三浦耕太郎さん



ダンススポーツ

7

福島県

荒川一三さん



軟式野球

8

矢浪周作さん



ゲートボール

9



ミニテニス (監督兼選手)

はたけやま み き お

島山美喜雄さん 70歳 ●参加歴：1回目

初の秋田開催、初の競技種目採用、初の出場で優勝

9月9日から11日まで開催されたねんりんピック秋田2017にミニテニスの監督兼選手として出場しました。

ねんりんピックが秋田県で初めて開催されること、ミニテニスがねんりんピックの競技種目として初めて採用されることから、参加したいと思いました。

開催県ということで5団体の出場枠をいただき、私が所属する中央地区から2団体出場することになりました。中央地区の予選会は今年2月に開催され、私は70歳の部で1位となり、ねんりんピック出場が叶いました。

大会はチーム3ペアによる団体戦で、予選リーグ(2セットマッチ)と決勝トーナメントの組合せで優勝チームを決定する方式でした。

予選リーグは、AとBの2ブロックで、Aが9チーム、Bが8チームの合計17チームが出場し、当チームはAブロックでした。決勝トーナメントには、A、B各ブロックの上位4チームの出場です。10日に開催された予選リーグは、6試合が行われ、セット率と得失差で3位になり、翌日の決勝

トーナメントに出場することができました。

予選リーグ終了後に決勝トーナメントに出場する代表者による抽選が行われ、私が抽選に参加したのですが、全国大会で優勝した選手を擁するチームと対戦することになってしまいました。チームの皆さんに申し訳ないと謝ったところ、主将が、相手の絶対的エースである選手と私が当らなければ勝つチャンスがあるのではないかと話されました。そこで二人で作戦を練って組合せ順を決め、準々決勝に挑みました。

結果、作戦が見事に的中し、2-1で勝利することができました。3位以内が確定し、勢いがついた当チーム。準決勝は、予選リーグでセット2-4で敗れた岐阜県チームとの再戦でしたが、これも組合せ順がうまくいき、2-0で勝利。決勝へ進出しました。

決勝の相手は名古屋チームでしたが、チームの勢いそのままに、2-0で優勝することができました。予選リーグ3位という、決して強いとは言えないチームが優勝できたのは、控え選手も含め、チーム一丸となって対戦相手に挑んだ結果だと思います。

これも健康であるおかげです。これからも、この体験を今後の人生に活かして行きたいと思います。

開催にあたって、県、関係機関、そして大会スタッフの皆様のご難儀に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



チームワークで優勝を果たした秋田中央 A のメンバー。(左から4人目)



体育館前にて、優勝トロフィーを誇らしく抱える。



ダンススポーツ (監督兼選手)

みうら こうたろう

三浦 耕太郎 さん 68歳 ● 参加歴：2 回目

観光・交流・競技の3つが楽しめる贅沢な大会

ダンスを始めたのは学生時代のことで、もう50年近くになります。

ねりんピックの競技種目にダンススポーツがあるということは以前より知っていましたが、自分が参加する年齢になったとは感慨深いものがありました。

昨年度はながさき大会で、秋田から遠いことからなかなか選手がそろわないということで、私に参加の打診がありました。パートナーである家内と、「よし、遊びがてら行ってみようか」と参加しましたが、甘かったですね。「60歳以上？嘘でしょ？」という感じで、皆さん若くてきれいで生き生きしていました。結果は惨敗でしたが、他県の同じ趣味の方たちと楽しく交流ができ、仲間たちとの観光も楽しかったです。

そして今年当県開催。幸運にも2年連続で出ることができました。地元とあって観光こそしませんでした。秋田県のはかの競技種目の選手や、他県のダンス選手たちと楽しく交流ができました。

今、私は町内会長と民生委員をやっておりますが、趣味や何かに夢中になっている方は若々しいですね。生き甲斐をもって豊かな人生を送る、これこそ高齢化社会の理想とすべきあり方ではないかと思えます。医療費にお

金を使うより趣味に使うほうがずっと健全です。そのため私は年数回ダンスパーティーを主催しています。1回開催するごとに皆さん5歳ずつ若返っていくようで、皆さんがおに～さん、おね～さんになるのも遠いことじゃないのではないかと(笑)。

競技の成績はともかく、開催地で観光し、他県の人たちと交流する。こんな楽しいことはありません。贅沢なことに、観光・交流・競技の3つが一緒にできるんですよ！それに開催県の方たちが開催場所にその県の“エキス”を持ってきてくれます。親切に対応してくれます。しかも財団の方や県の担当の方が、面倒な宿や交通手段の手配をしっかりとしてくれます。

ねりんピックに参加するということは素晴らしいことです。LL財団にはぜひこの行事を続けてほしいと思います。



本番、フロアにてナチュラルターン。



本番、フロアにてブロマードポジション。



軟式野球

しらかわくおう
白河楽翁クラブ

あらかわ かずみ

荒川一三さん 69歳 ●参加歴：2回目

クラブとして23年ぶりの出場で、幸運に恵まれ優勝

ねんりんピック秋田2017で軟式野球が競技種目に復活することを知り、福島県還暦野球連盟にお願いしたところ、快く推薦をいただき、出場の運びとなりました。平成6年のかがわ大会以来の出場となります。

白河楽翁クラブは、平成4年に誕生して25年。数々の全国大会に出場した実績があります。「生涯野球」をモットーに掲げ、叱咤激励しながら日々練習に励み、健康長寿を目指すともに、出会いを大切にしながら、試合では絶対諦めない、そんな粘り強いチームです。

大会で印象強く感激したことは、秋田県の「おもてなしの心」でした。総合開会式では、入場行進、それに続く数々のアトラクションなど参加者や観客を飽きさせない見事な進行演出でした。その後北へ進み、能代市での合同開始式に参加しました。式、会場共に素晴らしかったです。ただ、時間の都合で能代駅前のイベントが見られず残念でした。さらに北へ進むこと一時間、世界遺産に登録されている白神山地の麓の町、八峰町に到着。とても長い一日でしたが、明日から始まる大会に選手は心躍りました。

第一試合終了後に行われた八峰町の歓迎会では、マグロの解体を初めて見ることができ、その場でいただきましたが、一味違った味わいでした。試合会場での昼食のお蕎麦、つみれ汁のおもてなしも大変美味しくいただき、開催地の皆様のお心遣いに感謝いたします。

さて、試合を振り返ってみると、二試合とも接戦で最少点差一点の差で勝敗を分けました。

第一試合は福井オールスターズさんで、少ないチャンスを確実に点にしていく試合運びは見習うべきと感じました。第二試合は千葉県の市川ライオンズさんで、過去何度か負けていましたが、今回は勝ちを譲っていただいたのではないかと考えております。

決勝戦は地元の強豪秋田還球クラブさんでしたが、雨天中止のための抽選により幸運にも勝つことができました。戦っていれば負けていたと思ったのは私だけでしょうか。

今回参加してみて25種目という多くの競技があることを知りました。今後は、ねんりんピックのPRにも積極的に努めていきたいと考えております。

秋田市、能代市、八峰町、あきた白神体験センター、福島県老人クラブ連合会、大会関係の皆様本当にありがとうございました。また、白河市、矢吹町、西郷村、泉崎村、浅川町からいただきました応援に対し、併せて感謝申し上げます。秋田県の軟式野球の益々の発展を期待いたします。

第一試合、福井県との対戦時の様子。(上)



雨天中止による抽選となった決勝の相手、秋田還球クラブと共に。(前列左から3人目)





ゲートボール 岩江チーム

や な み し ゅ う さ く

矢浪周作さん 70歳 ●参加歴：1回目

選手として目の当たりにした大会運営の素晴らしさに感動

私たち岩江チームは、全国健康福祉祭（ねんりんピック）の予選を兼ねて、今年4月に開催された「第25回すこやか福島ねんりんピック」において、優勝を果たしたことから、あきた大会の出場権を獲得しました。

ねんりんピックの開催については、新聞、テレビ等で知ってはおりましたが、実際に選手の立場となって入場行進を行い、総合開会式の景色を目の当たりにすると、熱いものが込み上げてくるものです。チーム全員で感動しておりました。

式典前アトラクションでは、「なまはげ太鼓」が力強く、見事にオープニングを飾り、実り豊かな秋田の四季の中にある、夏の風物詩「竿燈まつり」が心に強く印象付けられたところです。

ゲートボール交流大会は、大館市の「ニプロハチ公ドーム」において開催されましたが、ドーム内に18のコートが設置されており、あまりの広さに大変驚きました。

また、本大会の参加を通して、審判団が全員

一級の資格をもっていること、女性審判員がテキパキとコールしていること等、さまざまな運営の実情を知り、その様子に触れて、大変素晴らしく、気持ちよく感じられました。

交流大会において私たち岩江チームは、第11コートで予選リーグ戦3試合を戦い、2勝1敗の成績でした。決勝トーナメントへは進むことができず残念でありましたが、選手は皆、善戦することができました。

今回出場した選手は、岩江三地区から選ばれた男性4名、女性3名の7名でチームを編成しましたが、選手の平均年齢も77歳と高齢化が進んでいます。そのため、現在ゲートボールの新会員を募集しているところではありますが、なかなか加入者がいないのが現状です。

これからもねんりんピックに出場した経験を忘れず、チームの雰囲気を盛り上げ、地区全体のレベルアップと親睦を大切にして、邁進して参ります。

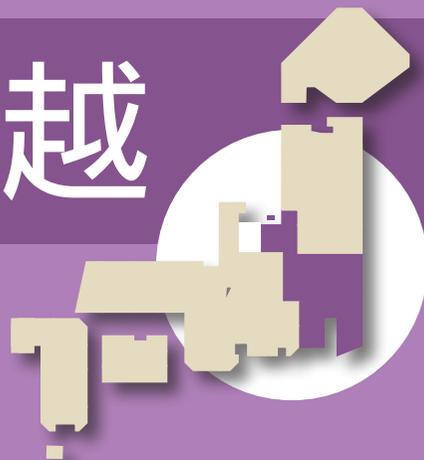


競技会場でチーム集合写真。皆で善戦した。(後列右端)



広いドーム内に設置されたコートで気持ちよくプレイができた。

関東・甲信越



茨城県

打越麻姫子さん



ソフトバレーボール

12

塚原加代子さん



太極拳

13

栃木県

青柳早苗さん



マラソン

14

近藤 清さん



ソフトテニス

15

群馬県

小幡 普さん



ウォークラリー

16

中里見和弘さん



ソフトボール

17

千葉県

小池三江さん



グラウンド・ゴルフ

18

齊藤昭治さん



健康マージャン

19

東京都

小室正孝さん



マラソン

20

上林 功さん



マラソン

21

山梨県

梅本美枝子さん



ダンススポーツ

22

長野県

山崎和子さん



ゲートボール

23

さいたま市

倉又泰弘さん



サッカー

24

宮崎三津子さん



ペタンク

25

横浜市

入内嶋 茂さん



ペタンク

26



ソフトバレーボール 「K-SVC長兎路」チーム

うちこしま き こ
打越麻姫子さん 65歳 ●参加歴：3回目

3回目の挑戦で金メダル。固い絆を得て新たな目標へ

私とソフトバレーボールとの出会いは、1990年に新潟県柏崎市で開かれた第1回ファミリーソフトバレーに家族で出場したときです。

ソフトバレーはネットの高さ2m、男女2名ずつ4人でコートに入り、主に男性がアタック、女性はレシーブを受け持ちます。私は以前からママさんバレーボールチームに所属しており、ソフトバレーも普通のバレーと同じようにやれば簡単だろうと自信を持っていました。

ところが、始めてみるとなかなか難しい。ボールが大きく軟らかいため、普通のバレーの感覚で受けると思いもよらぬ方向に弾んでしまいます。始めた当初は戸惑いの連続でしたが、チームのメンバーと共に日々練習に励み、地域や近隣のさまざまな大会に参加してきました。

60歳になり、ねんりんピック出場の機会をいただくことができました。初めて参加した宮城・仙台大会（2012年）、次のやまぐち大会（2015年）

では今一步力及びませんでした。今回のあきた大会では、絶対に優勝したいとの強い気持ちでチーム一丸となって挑み、9月11日の決勝戦にて、優勝を勝ち取ることができました。

緊張感ある試合の一方で、心に残る貴重な体験もさせていただきました。

開催前日の茨城県選手団の交流会では、他競技の選手の皆さんといろいろなお話をし、絆を深めることができました。開会式では、秋田県民の皆さんが秋田の四季を情緒豊かに表現したパフォーマンスに大変感動しました。

また競技においても、80歳を超える高齢でありながら、はつらつとプレーをする他チームの選手を拜見し、私たちも先輩方のように、いつまでも健康な身体でソフトバレーを続けていきたいと、新たな目標を見つけることができました。

最後に、あきた大会関係者の皆様、そして茨城県選手団役員の皆様には多大なる応援と貴重な体験の機会をいただき、本当にありがとうございました。今回のねんりんピック参加で得た絆を大事にしながら、今後も情熱を持ってソフトバレーを続けていきたいと思っています。



優勝を決めた後、晴れやかな笑顔でメンバーと。（前列右端）



打越さんのレシーブが上がり、さあ決定打へ。



太極拳 「オアシス」チーム (監督)

つかはら か よ こ
塚原加代子さん 67歳 ●参加歴：3回目

感動の演武 苦節10年の集大成に大満足

2007年に第20回全国健康福祉祭いばらき大会が開催されてから、10年が経ちました。当時、太極拳は取手市で開催され、優勝は茨城県チームでした。あ那时的感動を忘れることができません。毎年行われる県代表選抜大会では勝つものの、全国のレベルには追いつくことができず、歯がゆい思いをしながら練習に励み、10年の歳月が流れました。

大会が終わると、チームはいったん解散し、選手の入替えをしてまた次の大会に向けて練習を重ねていきます。そんな体制のなか、今回は出だしから良い雰囲気恵まれ、レベルも均等で、今までにない強固なチームワークで上位に入ることを目標に、いざ秋田へと向かいました。

9月9日(土)、晴天に恵まれた素晴らしい開会式でした。初めて見た竿燈は圧巻でした。選手席からの「ドッコイショー、ドッコイショー」の掛け声も楽しくて、開会式は何度か経験していますが、こんな一体感を感じたのは初めてでした。

試合当日は、秋田県の皆さんのおもてなしにほっこりしながら、全力を尽くすことができ



ぴったりと息の合った演武を見せるオアシスチーム。

ました。監督として、チームをまとめ、技術指導にも熱が入りました。

結果は3位でしたが、今までで一番の高得点、10点満点で9.20を獲得。これは2007年に優勝したときよりも高い点数でした。順位ではなく、演武の内容の良さに大満足でした。会場からの拍手や、感嘆の声に包まれるなか、私自身、鳥肌が立つくらいにピッタリとそろい、音楽にも合っている演武を目の当たりにして、本当に感動しました。

団体競技の難しさは、全員がそろって練習できる時間が少ないこと。チームワークづくりに一番心を砕きましたが、皆が乗り越えて本物になることができたと思えました。

60歳を過ぎてから、こんなに素敵な体験ができる場があること、そして深い絆ができたこと。あきた大会は私たちににとって特別な記念日になりました。

そして、茨城県選手団役員の皆さんには毎大会お世話になりありがとうございます。わがままなおばさんたちに細やかなお心遣いをいただき、感謝と御礼を申し上げます。お疲れさまでした。



最高のチームワークで戦い抜いた選手たちと。(左から4人目)



マラソン 10km

あおやぎさなえ

青柳早苗さん 62歳 ●参加歴：2回目

座右の銘「継続は力なり」を胸に優勝へ！

ダイエットとストレス発散のために走り始めて30年。目標のために始めたのがいつの間にか生活の一部になり、そしてねんりんピックを知ることになりました。

初めて出場したねんりんピックでは開会式の素晴らしさに感激しました。まるでオリンピックみたいで、またこんな感動を味わいたいと思い、練習を積み、選考レースに挑みました。練習の甲斐もあり、あきた大会出場の切符を手にすることができました。

開会式では、地元の小さな子どもたちを含めて多くの方々歓迎のパフォーマンスで迎えてくれて、前回同様に大感激でした。

マラソン交流大会は鹿角市で行われました。当日は朝から大雷雨で、まるで夕立ちの薄暗さ。気持ちも雨と一緒に沈み、こんな気持ちで走れるだろうか心配に。しかし、雨が降ろうと雷だろうと中止になることはないので、建物の中で雨宿りしながら準備体操をしてスタートを待ちました。すると、少しずつ天気回復し、開始時刻には雨もやんでモチベーションを上げ、

スタートラインに着くことができました。

コース前半は下り坂。膝に負担がかかるので抑え気味に。後半は筋肉を使う上り坂で、全エネルギーを使い果たしました。ねんりんピックの選手には少しハードなコースでしたが、日頃の山登りのトレーニングが功を奏し、また運も味方してくれ、優勝することができました。沿道で応援して下さった地元の人たちの声も大きな力になりました。

大会後も、秋田市で行われたいろいろなイベントに参加して、おもてなしを受けました。特に、なまはげや竿燈のパフォーマンスはマラソン仲間と共に楽しむことができました。

この大会でも、他県の仲間たちや地元の人たちとの交流で、人間的にもひと回り大きくなったような気がします。「継続は力なり」の言葉が自分の代名詞となり、そして今につながったと実感しています。

このような機会を与えて下さった事務局の皆様、大会にかかわるすべての皆様に感謝を申し上げます。この感激を味わえるねんりんピックにまた出場できるよう、日々トレーニングに励んでいきたいと思えます。ありがとうございました。



共に健闘した栃木県チームの仲間たち。(右から3人目)



トレーニングの成果が結実し、見事に優勝。



ソフトテニス 「生きいきとちぎ」チーム

こんどう きよし
近藤 清さん 70歳 ●参加歴：4回目

一致団結の快進撃で手にした、感謝の銀メダル

9月9日の総合開会式は天気もよく、入場行進後、秋田竿燈の妙技を鑑賞して、秋田市からソフトテニス開始式会場の大館市へ向かいました。ねんりんピックでソフトテニスの栃木県チームは、過去に2位トーナメントグループでの優勝しか実績がありません。今回は県内トップの選手が代表となってチームを結成し、全国優勝を目標に一致団結して秋田県へと向かいました。

翌日10日の予選リーグの朝、突然の雷雨に見舞われ、みるみるうちにコートが洪水に。これは2014年とちぎ大会の二の舞かと心配しましたが、天は我を見放さず、天気が回復。役員・補助員の協力でコートから水がなくなり、試合ができるようになりました。

初日の大会成績は、京都府、富山県、佐賀県と対戦して、いずれも見事に3対0で予選リーグを突破。1位トーナメントグループへ進出し、金メダルへ一歩前進しました。

夜は美味しいお酒で祝杯を上げ、若い頃の楽しい思い出や苦労話など、テニス談義にしおれた花（笑）を咲かせました。また、1日目、2

日目と隣のテントから地元秋田チームがお菓子やデザートの違いを入れてくださり、楽しい会話で盛り上がり、有意義な交流で時を過ごすことができました。

1位トーナメントの当日は、気分よく会場入りして円陣で気持ちを盛り上げ、初戦を迎えました。1回戦は愛知県と対戦、3対0で勝利。次は全勝で予選を勝ち上がって来た千葉県と対戦、男子が4対3で接戦を制し、栃木県が2対0で勝利しました。

準決勝では山口県が勝ち上がってきましたが、栃木県が2対0で下し、決勝戦まで漕ぎ着けました。決勝の相手は鹿児島県。初戦ミックスは勝利し、金メダルまであと1勝と迫ったものの、男子は惜敗。女子も40分の大熱戦でしたが惜敗し、スコア1対2で銀メダルを獲得しました。

目標は達成できませんでしたが、決勝戦まで来られたのは選手全員の努力と、とちぎ健康福祉協会役員の方々のお世話と応援があったこと。また、監督にはいろいろなお手配とお世話に大変感謝しています。今回のあきた大会でお世話になった関係者と地元の方にも、心からお礼を申し上げます。

終わりに、全国優勝は後輩に託してペンを置きます。



試合前、優勝を目指して緊張気味の面々。(右から2人目)



一球一打を大事に、会心のプレーが続く。



ウォークラリー 「名月赤城山」チーム(監督兼選手)

おばた すすむ

小幡 普さん 76歳 ●参加歴：2回目

楽しく元気に「みちのくの小京都」を闊歩

「秋田からつなぐれ!つらなれ!長寿の輪」のスローガンのもと、秋田県立中央公園県営陸上競技場で総合開会式終了後、仲間と別れて監督代表者会議に参加のため、全国のウォークラリー仲間と角館交流センターへ集結しました。諸事項の説明を受け、新たな気持ちで明日の健闘を誓い合いました。

大会前日の宿泊は、仙北市の西木温泉「ふれあいプラザ クリオン」でお世話になり、地酒で乾杯し、英気を養いながら楽しい一夜を過ごしました。

9月10日(日)、当日の朝はあいにくの雨で開催が危ぶまれました。特に開会式の県立角館高等学校駒草キャンパス体育館では雷鳴轟く大雨になってしまい、屋根に打ち続ける雨の音で主催者側の挨拶も聞こえないぐらいの強い雨でした。これが、日本海の秋から冬への季節の変わり目の天候とのことです。

運良くスタート時には小雨となり、レインコートをまもって10時から順次1分おきに出発。都道府県別に5人1組のグループが、不安を抱え

ながら、また楽しみながら、スタッフの皆さんに見送られてゲートを後にしていきます。群馬県は、2コースあるうちの「染井吉野コース」に参加。「名月赤城山」チームとして、担当の善養寺さんに送られて3組目の出発となりました。平均年齢は72歳で、まだまだ青年の域です。

我々の予想では、コースは一般観光客とのルートを避けて裏道を歩かせるものと見ていました。ところが実際は、「みちのくの小京都 角館」といわれる武家屋敷の町並みを堂々と歩くことができましたし、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された貴重な文化財を見学することもできました。また、角館の桜並木は全国的に有名ですが、武家屋敷内にも国指定の天然記念物であるシダレザクラが毅然と優雅に立っていました。約6kmの良いコースを選定してくれました。仙北市、実行委員会、レクリエーション協会の皆さんの並々ならぬご努力に心より感謝申し上げます。

駒図が26図、質問が11カ所、ゲームが1カ所のコース。コースの離脱なく、記念碑等の碑文をよく読んで、惑わされない回答と時間の配分を考えれば、優勝できたかも(?)と、下山祝いをしながら反省しきりでした。



平均72歳はまだまだ若手。(左から2人目)



雷雨も上がり、意気軒昂に出発。



ソフトボール 「高崎シニアソフトボールクラブ」

なかざとみかずひろ

中里見和弘さん 61歳 ●参加歴：1回目

秋田で輝いた70歳の青春

話があってから数カ月。やっと、出発の日が来ました。9月8日朝、高崎駅に群馬色のジャージを身に着けた人たちが集合しました。

「かんぱ～い！」大宮で東北本線に乗り替え、車内ですぐに宴が始まり、楽しい東北旅行がスタートしました。盛岡まで2時間余りで到着。駅からバスで雫石の宿へ。初日の夜は、群馬県選手団の皆さん全員で賑やかな会食でした。

9月9日、朝から開会式。まさにオリンピックみたいなシーンが3時間以上も上演されました。竿燈まつりなど地元の皆さんの精一杯の演技に酔いしれました。夕方、ソフトボールの開始式。地元の皆さんの民謡の演奏、歌や踊りに魅せられました。

9月10日、ようやくソフトボール交流大会の始まり。会場は由利本荘市。市職員の方がバスに添乗して、会場とホテルの往復に同行してくれました。「私、役所では上下水道課に所属してまして、こういう仕事は経験がないんす…」。照れながら、なまり交じりに話す様子がとても

好印象でした。

初戦の相手は、監督が最高齢の賞をもらった岡山県。初回2点先取し、なおも山田捕手の3点本塁打が出て、一気に試合の主導権を握りました。序盤のチームには勢いがあったのですが、終わってみれば得点は「5-4」。正に薄氷を踏むような試合ぶりでした。

同日2試合目の相手は岩手県。2回終わって、得点「1-2」。劣勢の滑り出しながら徐々に挽回しました。終盤久々に声が掛かった私も、絶妙なバントから6点目のホームイン。結局「6-3」で勝利。チームは、トーナメント2連勝で初日を終えました。予想を上回る好勝負に、みんな喜び満面で宿に帰りました。もちろん、夕食が盛り上がったのは言うまでもありません。

翌日の3回戦は強豪、浜松市チームに大敗。でも試合後に表彰を受けました。私たちは全国65チーム中の16強に入る好成績で、「優秀賞」を授与されました。高崎シニアの精鋭13選手、平均年齢70歳の青春がキラキラ輝いた瞬間でした。

普段の私は、試合では記録員やカメラマン。家でチームのブログ運営などをしていきます。秋田で1打席のチャンスに1得点できたことは、これからの人生の糧になったと思います。

「ねんりんピック秋田2017」——私にとって昨年一番のビッグイベントでした。



大健闘の高崎チーム。全国16強の一角に名を残した。(後列右端)



グラウンド・ゴルフ

こいけみつえ

小池三江さん 76歳 ●参加歴：1回目

驚き、喜び、思いっきり楽しんで、幸せに

私は日々、グラウンド・ゴルフに熱心に楽しんでいました。市の大会、郡の大会と選ばれ県大会に出場し、県でも優勝してねんりんピックに行くことになりました。大変うれしく家に帰り、家族に話すと大変驚き、「よかったね」と喜んでくれました。

「おばあちゃん一人で行くの?」「うん」「おばあちゃんは方向おんちだから行けるわけじゃない」——私もあきらめていたのです。すると親しい友だちや姪たちが、「そういう名誉なことは、だれもが体験できるわけではないのだから参加したほうがいいよ」と言ってくれました。集合場所の東京駅まで送って行くからと勧めてくれたのです。

不安とうれしさが入り交じった複雑な気持ちで出発の日を迎えました。千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」の付いた国体のユニフォームを注文し、その日を待ちました。

秋田に着くと、地元の人たちの大歓迎を受け、驚きとうれしさに気持ちが高鳴りました。夕食は懇親会で、みな初対面なのに以前から知り合いのように話が弾み、とても和やかな雰囲気楽しいひとときを過ごしました。

2日目は開会式。中央に来ると「千葉県選手の皆さんです」とアナウンスがかかります。みな一斉に菜の花を持って右手を掲げ、気分は学生時代です。開会式後のイベントも盛大でした。花火は夜見るものと思っていましたが、昼間の花火です。高く上がった花火の中から幅3cm、長

さ2mほどの色とりどりのテープが風に舞ってひらひら落ちてくる様子は素晴らしい光景でした。さすが花火の街、大曲です。秋田竿燈まつりも、たくさんの提灯を持ち上げて見事なものでした。入場行進での学生さんの生演奏にも感激しどおし。感謝の気持ちでいっぱいです。

いよいよ大会初日。心躍らせて太田奥羽グラウンド・ゴルフ場に着きました。芝の手入れもよい素晴らしいグラウンドでプレーができて、とても幸せでした。他県の方々とも楽しく交流することができました。

秋田滞在の5日間、地元の方々との交流を楽しんだり、子どもたちとゲームをしたり、美味しいお料理をいただいたり。特にお米は大変美味しかったです。

ねんりんピックへの参加は私にとって大変思い出深いことでした。日々、グラウンド・ゴルフをすることでこのような機会に恵まれ、思いもよらなかった幸せを手にしました。ありがとうございました。



素晴らしいグラウンドでプレー、最高の思い出に。



健康マージャン 「千葉県マージャンピック」チーム

さいとうしょうじ

齊藤昭治さん 84歳 ●参加歴：1回目

胸に焼きつく生きがい実感の2日間

2017年9月9日午前10時、晴れ渡った青空の下、第30回全国健康福祉祭あきた大会の総合開会式が県立中央公園陸上競技場で厳かに開幕されました。全国47都道府県と20の政令指定都市の各選手団がそれぞれ揃いのユニフォームで力強い入場行進を続けます。千葉県選手団の入場は後半でしたが、美しい菜の花の造花を掲げて華やかに入場しました。

1万人を超える選手団が広いグラウンドを埋め尽くして美しく整列。その中に自分も含まれていると思うと感無量でした。この年齢で参加できる幸運が訪れるとは、私の人生にとって予想すらできないことでした。今でもそのときの美しい全景が胸に焼きついています。

振り返ってみれば、健康マージャンを始めて5年目にして、ねんりんピックに参加目的で地区選考会を通過し、最後の千葉県代表選考会で上位4名に名を連ねることができました。鈴木和雄さん、鎌田芳信さん、蒲澤信男さんと一緒にねんりんピックに参加することになりました。

8月29日、ホテル菜の花で結団式が開かれ、私たち4人も力を合わせて頑張ることを誓い合いました。当日は各種目の選手にもお目にかかり、若々しい頼もしさに感動しました。

9月10日からの2日間、私たちは北秋田市鷹巣体育館でプレーしました。初日の団体戦で千葉県は67チーム中4位に入賞することができ、壇上で表彰され感動し

ました。

2日間、全国の選手たちと席を並べて競技に臨み、全員がマナーに気を配りながらも手際の良い牌捌を見せてくれ、楽しくプレーすることができました。4泊5日の旅でした。

私が健康マージャンを始めたのは、いつも私の健康を気づかせてくれる妻のおかげです。5年前、妻のボランティア仲間から頭脳の訓練に健康マージャンが効果があると教えられました。早速、事務局に連絡をして見学し、その日に入会したのです。それがねんりんピックに参加できる大きなキッカケとなりました。

十数年前に会社を退職し、地域の友人に誘われ近くの広場でグラウンド・ゴルフを楽しんでいました。健康マージャンを始めたことで楽しみが倍になり、大きな生きがいとなりました。食生活にも気を配り、健康を維持することに心掛けて毎日を過ごしています。



初日から快調な戦績で気分もはつらつ。(左端)



マラソン 3km

こむろまさたか

小室正孝さん 60歳 ●参加歴：1回目

忘れられない「ねんりんピックの鉄人たち」

東京都陸上競技協会から、マラソン3km70歳未満東京都代表のオファーをいただいたときには、シニアの全国大会に出場したほど熱中しているサッカー種目で、東京都選抜に声を掛けられていました。

予選を兼ねた2016年11月のシニア健康スポーツフェスティバル TOKYO の3km 走では、会場が自宅から近く、サッカーの予定も入っていないため、気軽な気持ちでエントリー。そして思いがけず3位となって、駒沢陸上競技場の表彰台でメダルを授かり、素晴らしい思い出となりました。

しかし、1位の選手には大差をつけられたため、その後の代表オファーは青天の霹靂でした。悩みましたが、個人として東京を代表して競技する魅力に惹かれ、サッカー関係者には事情を説明し、マラソン代表のお誘いを受けることにしました。そして、毎週末のサッカーでしか身体を動かしていないので、この夏は走るぞと決意したわけです。ところが、サッカーで膝を痛めてしまい、結局のところ思うように準備ができず、三連休を取るための仕事の調整だけに走り回っていました。

大会本番のレースでは、目標には届きませんでしたが、経験不足も含めて自分の現在地を知ることができました。スタートを待つあの緊張感と、アップダウンの厳しいコースが今も思い出されます。

3日間共に過ごしたマラソン東京代表のチームメイトからは、さまざまなことを教わり、そのランニング愛にた

くさんの刺激をいただきました。その中でも、高齢表彰を受けた女性選手は、70歳からランニングを始め、フルマラソンを3時間台で走ったり、100km ウルトラマラソンを完走したり、オーバー80の現在では、年齢別の世界記録をいくつも所持している方でした。スペインで開催される2018年の世界マスターズで、世界記録の更新を目標にされていると伺い、素直に感動しました。こんな凄い方々とチームメイトになれたことが、何より私の一番の誇りとなりました。

大会を通して全国の代表選手と交流を図ることができたのも、とても素晴らしい思い出です。皆さんと、またいつかどこかでお会いできたら素敵です。

大変お世話になった東京都や秋田県の大会関係者の皆さん、また大会を盛り上げ、支えてくれたフレンドリーな秋田県民の方々に感謝します。ありがとうございました。いつかまた、サッカー東京都選抜としてねんりんピックに戻ってきます。



凄い先輩たちに囲まれ、いざスタート!



マラソン 10km

かんばやし いさお

上林 功さん 74歳 ●参加歴：1回目

感激、無念、感動。生涯の記憶に残る4日間

2017年9月8日、ついに大会へ出発する日が来た。秋田県は7月23日、8月24日の東北豪雨で甚大な被害に遭ったが、関係者の努力で大会開催にこぎ着けられたことに感謝。

東京都選手団は総勢264名の大所帯である。13時44分発の「こまち57号」に分散して乗車。17時51分にJR秋田駅に到着。改札を出たところで、「ようこそ秋田へ」と書かれた10mもあるかという大横幕と、お揃いのハッピーを着た30名を超す役員・ボランティアの方々の心のこもった歓迎を受け感激した。

翌日の総合開会式は秋田県立中央公園で行われた。10時51分、沖縄を先頭にいよいよ入場行進の開始である。53年前1964年に開催された東京五輪の開会式の行進を思い出し、感無量。最近のオリンピックでは選手たちが銘々自由な雰囲気で行進しているが、私はねんりんピックの行進のほうが好きだ。最後67番目は開催県「秋田」だ。ひときわ高い歓声が上がった。実に45分もかかった。

11時36分、開会宣言に続き開会の式典へ。われわれ選手団はスタンドへ移動し、メインアトラクションを鑑賞した。秋田の1年の風景・生活・祭りを表した壮大な絵巻だった。豪雨で被災した中でも練習を続けてこられた皆さんの真剣な演技に目頭が熱くなった。

9月10日(日)レース当日、マラソン競技は鹿角市総合運動公園で行われ、私は10kmの部に出場した。11時に年代別男女同時スタートだ。競技場に戻って来たとき、3位と30mぐらいの差があった。3コーナーを曲がったあたりから少し近づいた感じがしたので、ラスト100mで

猛追したが及ばず、胸の差で負けた。最終結果を見たら、なんと45分03秒同タイムの4位だった。3位までの選手が表彰台で賞状とメダルを授与されるのを目の当たりにして、悔しい気持ちは人一倍であった。

翌朝は5時起床、ゆっくり朝風呂を楽しむ。バスを乗り継ぎ、秋田駅に戻り、12時13分発の「こまち20号」で一路東京に戻った。

4日間にわたる「ねんりんピック秋田2017」に出場できたこの喜びは、ひと言では表せない。33歳でマラソンを始めて41年、わがマラソン人生で一番の思い出に残る出来事である。秋田県民の皆様の選手団への心のこもった対応、役員・ボランティアの甲斐甲斐しい活躍、開会式のメインアトラクションに出場した小学生から年配の方々の長期間にわたる練習の成果など、思い出は尽きない。数カ月後、数年後にこの体験記を読み返すたび、この感動がよみがえってくるのではないかと考えている。



入賞を目指して懸命の走り。



ダンススポーツ (監督)

うめもと み え こ

梅本美枝子さん 68歳 ●参加歴：1回目

監督が果たす役割 襷をつなぐ

監督としての襷を渡されたのが、開催の9カ月前。出場選手は3月開催のねんりんピック県予選会を経て決定された。監督として最初に行ったのが、全員での顔合わせと強化練習会だ。連盟の会長や顧問も駆けつけての激励に、選手も否応なしに意識が高まり、何回か練習を重ねるうちに結束力も生まれ、当日への態勢を整えることができた。

当日は、何の不安もなく実力を出し切って戦えるよう持っていくのも監督の役目だ。会場の秋田県立体育館は、400名近い選手で溢れかえっていた。勝ち残ったか？ 敗退か？ 結果はフロアの壁に次々と貼りだされていく。一度敗退してもリダンス（敗者復活戦）があるため、安心してはいられない。見落とすと失格になってしまうので、同行した仲間と手分けして、確認作業と選手への連絡でフロアを駆けずり回る。

選手たちは、前の日の歓迎セレモニーに気分も高揚、コンディションも上々だ。強豪揃い、各県とも威信をかけてトップ選手を送り込んでくるので、選手層の薄い山梨にとっては分が悪い。いやいや、弱音はよそう。選手たちはびっくりするくらい健闘したのである。観客席には仙台から応援に駆けつけた私の親戚一家。その心強い声援に選手の意気も最高潮に達してきた。気がつけば全員が何らかの種目で二次に進むことができ、いつも以上の力を発揮していた。最終的には、個人戦、団体戦ともメダルという成果には手が届かなかったけれど、選手の胸には誇りという勲章が輝いていた。

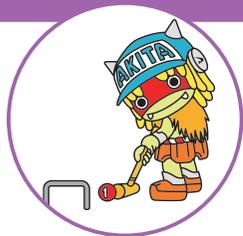
さて、これで監督の役目が終わったわけ

ではない。選手の皆さんにいかに楽しい思い出づくりをするか、最後のフォローが大切である。同行の2人と秋田満喫の作戦を立てる。まず夜の街に繰り出して「竿燈」を見学、そして温泉にゆっくり浸かった後は、地元の地酒ときりたんぼ鍋だ。美味しいお酒に話も弾み、楽しい一夜となった。次の日は、皆で秋田観光をすることにした。千秋公園で歴史を学び、酒蔵めぐりでは、秋田自慢の日本酒をたっぷり味わった。どこに行っても、心をこめた「おもてなし」があり、秋田のよさを十分感じることができた。

今回、選手の中に、大病から復帰した者と、高齢のためこれを機に競技会を引退する夫婦が含まれていた。ねんりんとは、一人ひとりが経てきたドラマの数であり、その踊りはその人の人生そのものではないか、などと感慨にふけているうちに、中央線「あずさ」は甲府駅に到着した。これで私の監督としての任は終り、また次の人に襷は繋がれていく。



個人戦スタンダードに臨む県代表選手たちと。(中央)



ゲートボール 「リンゴスター」チーム

やまざき かずこ

山崎 和子 さん 66歳 ●参加歴：2回目

仲間と共に分かち合う生涯スポーツの醍醐味

前回参加のときは、開会式の入場行進でチーム紹介をさせていただきました。大きな大会に感動し、ぜひまた仲間と参加したいと思っていました。今回はここ5、6年、毎週楽しく練習している気の合った仲間と、県の予選大会を勝ち抜きました。

好天に恵まれ、あきた大会が始まりました。総合開会式でのアトラクションには東北三大祭りの1つ、竿燈まつり。「ドッコイショー、ドッコイショー」の大声援にグラウンドいっばいに男たちの技を見せていただき、感動。会場も拍手喝采でした。

翌日は大館市でのゲートボール開会式。入口では大きな真っ白の秋田犬が出迎えてくれました。アトラクション「大館曲げわっぱ太鼓」がニプロハチ公ドーム会場に響き、力が入っていたよよい大会が始まりました。

ゲートボールは静かな動きの競技です。その日誰がヒーローになるかはわかりません。この日も最後に、試合の展開が変わるドラマがありました。メンタルの状態が一打の結果を左右することも多々あります。「いつも楽しく」をモットーにしている私たちは、今回も、結果は自然についてくるという前向きな気持ちで臨みました。

幸いにも予選は何とか突破し、決勝トーナメントに進むことができました。ベスト16に入り、優秀賞のメダルをいただきました。負ければ主将のせい、勝てば選手のおかげ。信頼し合い、うまく連携しながら、皆で獲ったメダルです。

私はずっとバレーボールをしてきました

が、40代でゲートボールに出会い、ただ楽しく遊べる軽い気持ちで始めて以来、年々奥の深さに引き込まれています。ゲートボールは歳を重ねてからも始められますし、それぞれの楽しみ方があるのが魅力です。常々、スポーツマンシップを持って皆が気持ちよく競技をして、「今日もよかったね」と言い合えるような時間をつくりたいと思っています。ねんりんピックには穏やかな空気が流れており、生涯スポーツとしてのよさを改めて感じました。

会場でおもてなしを受けた名物きりたんぼの味は、やはり本場、最高でした。仲間と4泊5日も出かけることはなかなかありません。秋田の地は広くバスでの移動に時間がかかりましたが、窓から見える稲穂は美しく心が癒され、よい思い出になりました。開催地のスタッフの皆様にも感謝です。

私たちはねんりんピックを走り始めたばかりです。これからも永く健康で参加できるよう頑張っていきたいと思っています。



ベスト16の好成績。メンバーの総力で優秀賞を獲得。(右端)



サッカー

くらまたやすひろ

倉又泰弘さん 63歳 ●参加歴：2回目

「こんにちは！」「ありがとう！」で心も体も元気

快晴の秋田県立中央公園陸上競技場。埼玉県に次いで55番目に入場したさいたま市選手団。白のウィンドブレーカーに白の帽子、手にはJリーグの浦和レッズと大宮アルディージャの旗を持ち、堂々と、にこやかに行進する選手団の先頭を私は旗手として行進していました。

場内アナウンスで「さいたま市選手団の入場です！」と紹介されると、スタンドにいる地元の方々から大きな拍手が沸き起り、誇らしい気持ちと喜びでいっぱいになりました。まるで国民体育大会のような、いやオリンピック選手団のような錯覚さえ感じるほどにうれしかったです。

さいたま市選手団の結団式で、私は選手宣誓の大役を仰せつかりました。その中で「共に競技する相手選手、チームメイト、競技を支えてくださる審判やスタッフの方々や地元の方々への感謝と尊敬の気持ちを大切に競技することを誓います」と、正直な思いを伝えさせていただきました。

いざ秋田県に到着すると、駅では温かい歓迎の言葉と笑顔に迎えられ、その後も宿舎、開会

式会場、競技会場などでも心温まる出迎えに喜びを感じました。

宿泊した男鹿市では、夕食の後、ホテルの隣りの会館で「男鹿なまはげ太鼓」の演奏を堪能しました。恐ろしい形相のなまはげに扮した地元の若者の迫真の演技には、涙が出るほどに感動しました。

翌日からは、サッカー会場のあるにかほ市へ。整備された天然芝の素晴らしいグラウンドで、岩手県代表、兵庫県代表、山口県代表と気持ちよく走り、蹴り、汗を流し、親交を深めることができました。

昼食会場では、地元の方々から美味しい手打ちうどんをご馳走になり、その優しさに心も体も温かくなりました。

大会期間中は「こんにちは！」と「ありがとう！」を何度も何度も口にして、笑顔になっている自分がいました。多くの人との出会いを通して、人と人が心からふれ合うことの心地よさと大切さを改めて感じるとともに、知らぬ間に心と体が元気になっている私でした。



ブロック準優勝を果たした雄々しいさいたまシニア。(前列左端)



ペタンク 「ひまわり」チーム (監督)

みやざき みつこ

宮崎三津子さん 78歳 ●参加歴：20回目

大会30年の軌跡に思う健康づくりの価値

ねんりんピック 30年の歴史を振り返ってみました。

第1回ひょうご大会。当時の私は埼玉県選手のお世話役でたった一人の応援者、埼玉県のペタンク発祥の地である花園町の新井教育長率いる静かなチームの参加でした。決勝戦では関西弁のおばさま方の熱烈な応援で、今ならクレームがつくかもしれません。そんな中、埼玉県は第1回の優勝の栄に浴しました。

第2回おおいた大会以降も、それぞれのお国柄が発揮され、それはそれは楽しい大会でした。仲間もたくさん増えました。

さいたま市は政令指定都市として、第17回群馬大会から参加するようになりました。第18回ふくおか大会では、次期開催県静岡の老人クラブの会長自らが、視察兼選手として参加。初めての人ほど怖いものはなく、「寄せ・打つ」と一投に一喜一憂しながらよい成績を収めていました。

第24回くまもと大会では、ちょうど組み合わせがよかったのでしょうか、常陸宮殿下、同妃殿下をお迎えしての「御前試合」をさせていただきました。スタッフ全員の意思統一が強く感じられ、心一つになっての大会が未だに脳裏に焼きついています。当時のわがチームの最高齢者は84歳。現在は90の齢を重ね、仲間に支えられて元気に活躍しています。

第28回やまぐち大会。吉田松陰先生の郷、まち全体からいろいろな刺激をいただき「よし、頑張るぞ！」

の気持ちに。前回の第29回ながさき大会では、天草四郎のお国で有明海を眺めながら大会に臨み、ひととき感慨深いものがありました。さいたま市は2勝しましたが、得失点で及ばず涙のみでした。

そして、今回のあきた大会。埼玉県とさいたま市は数あるホテルで初めての同宿となり、4団体でとても楽しい交流が持てました。埼玉県とさいたま市ではプレーも技術もレベルが違いすぎましたが、カドラージュ戦の洗礼を受けての決勝トーナメント進出。1つ勝っただけで喜びもひとしおでした。

3年前からリベンジすると頑張ってきた82歳のわが夫、ベスト16に入った優秀賞のメダルの重さはいかばかりか！ これからも夫婦で頑張り、全国の愛好家とペタンクを見守っていきます。健康づくり・体力づくり・仲間との親睦交流という、健康福祉祭の目的とする大きな輪が全国に広がりつつあるのではないのでしょうか。

交流大会 決勝トーナメント表



夫婦で参加。優秀賞の栄誉を手に感無量。(左端)



ペタンク 「かがやき横浜」チーム (監督兼選手)

いりうちしま しげる

入内嶋 茂さん 75歳 ●参加歴：3回目

亡き友の想いを胸に勝ち取った3位入賞

13年前、健康づくりを目的に少数で公園の一面からスタートした「かがやき横浜ペタンク同好会」は、今回で3回目のねんりんピック出場となります。

9月8日大会前日、東京駅から上越新幹線・特急いなほ号と乗り継ぎながら秋田県へ入りました。車窓には美しい日本海の景色や一面が黄金色の稲穂の世界が広がります。お弁当を食べながら、旅の気分を満喫。宿舎で落ち着いた頃に緊急地震速報が発生、幸い被害もなく安堵しました。

9日、開会式会場では、各チームが色とりどりのユニフォームで補助競技場に集合し、少し緊張しながらも、和気あいあいと交流ができました。開会式典では、赤とんぼも飛び交う素晴らしい天気の中で、秋田県の郷土文化が紹介され会場が大いに盛り上がりました。

10日、交流試合初日の朝、メンバー全員、昨日までの物見遊山な気分を切り替え、「勝負に勝つ」という熱い気持ちで会場へ。潟上市追分地区公園多目的広場に到着すると、各チームの気合が入った練習が目に入ります。私たちは地区予選大会・ねんりんピック秋田2017代表選出大会に気持ちを1つにして、チームワークと作戦で戦ってきました。横浜市代表として、自分たちのゲームに徹することを誓い、試合に臨みました。初戦は鹿児島県、1点を競う好試合です。私たちは時間切れ寸前で勝利。この後、流れに乗り、予選を勝ち上がることができました。

11日、決勝トーナメント戦。2014年のとちぎ大会で達成したベスト8を超える目標まであと一歩。横浜市代表としてチームワークを密にする

ことを心がけ、今までの作戦を忘れず試合に挑みます。準々決勝は和歌山県との戦い。4点のビハインドを試合終了寸前で逆転し、目標のベスト4進出。しかし、準決勝で神奈川県に敗退。地区予選からの連勝も18で止まってしまいましたが、その後の3位決定戦に勝利することができました。

かがやき横浜は、大会直前に監督兼選手が肺がんで亡くなり、1名欠員で参加しました。故人の想いを抱きながらチームワークで3位まで勝ち上がったことがうれしいです。

最後になりましたが、ねんりんピック秋田2017に協力いただきました、秋田県ペタンク協会、潟上市およびボランティアの皆様にご感謝申し上げます。



チームワークで快進撃。過去最高の3位獲得。(右端)

東海・北陸



富山県

西嶋鈴子さん



ウォークラリー

28

末永正志さん



剣道

29

福井県

上嶋啓芳さん



剣道

30

阪口健一さん



健康マーじゃん

31

岐阜県

高橋照男さん



グラウンド・ゴルフ

32

静岡県

川窪健一さん



弓道

33

杉山典克さん



ダンススポーツ

34

愛知県

奥村昌彦さん



サッカー

35

三重県

林 眞市さん



将棋

36

山崎八重子さん



太極拳

37



ウォークラリー 「ちんぐるま」チーム

にしじますずこ

西嶋 鈴子さん 73歳 ● 参加歴：4回目

競技と観光で歩いた武家屋敷通り

「今、テレビ見てる？ 角館から中継してるよ」と、一緒にウォークラリーに参加した仲間からの電話。慌ててテレビをつけると、私たちがクイズで右往左往した武家屋敷通りが映っています。大会開催時は緑だったしだれ桜が鮮やかな紅葉になっており、長く続く黒の板塀をバックにとってもきれいでした。大会前から大雨情報やクマの出没情報など秋田のニュースに目がいきましましたが、大会が終わってから2カ月が経った今も、秋田旅行の余韻を楽しんでいます。

ウォークラリーの競技開始に先立ち、学校の体育館で開会式がありました。角館市長の挨拶や、歓迎レセプションの間中雨と雷がひどく、こんな中で歩くのかと暗たんたる気持ちになりました。その後雨合羽を着て待機。ところがスタートしたら劇的にピタッと止んで、本当に印象的な出来事でした。

ウォークラリーは、歩いてクイズを解く競技。クイズ得点と時間得点の合計で競います。普通の地図ではなく、ばらばらのコマ図を見ながら、チェックポイントに向かい、問題やゲームに挑みます。ゴール時間は隠しタイムになっており、早くても遅くてもマイナス。足の速い人が有利

でもなく、頭が良い人が有利でもなく、多分に運が影響するゲームで、そこがウォークラリーの楽しさでもあります。

角館には、古い町並み、民家がたくさんあって、ウォークラリーには最適でした。間違えて階段を2往復したのは応えましたが、競技中は真剣に取り組みました。

翌日はゆっくり観光して回りました。武家屋敷通りから1本裏通りに入った時、色とりどりの花々が目に飛び込んできました。花が少ない9月に何だろうと思って見ると、そこは「ダリア園」。大輪、中輪、小輪、ポンポンダリアみたいなもの、一つの花に色が混じっているものなど、初めてみるダリアの種類の多さに感心し、しばらくスマホ撮影に夢中になってしまいました。園芸植物の教室の生徒さんたちの作品だとか。ねんりんピックに合わせて栽培されたのかと嬉しく拝見しました。

2時間ほど普通に歩けたらOK、特別な練習もなしで参加できる気軽さに惹かれて競技を始め、15年ほど経ちます。70代と80代の5人のチームで、仲良く、力を出し合っとなんとか続けています。歩ける限り仲間と一緒にウォークラリーを楽しみたいと願っています。



歴史的な町並みを、仲間と楽しみながらウォークラリー。(右端)



競技で歩いた武家屋敷を、翌日再び観光で歩いた。(右から2人目)



剣道 (監督兼選手)

まつえただし

末永正志さん 62歳 ●参加歴：1回目

次回、我が郷土とやま大会に向けて

9月9日から第30回全国健康福祉祭あきた大会が開催され、私は剣道の監督兼選手ということで参加しました。

私は警察官を退職し、地元中学校の剣道コーチを委嘱されたところであり、「これまでの剣道鍛錬の成果を試してみたい。全国大会を目指す子どもたちの励みになりたい」との思いから春の予選会に参加しました。対戦は県内でも強豪選手ばかりでしたが、幸運なことに勝ち上がることができ、代表選手に選考されました。地元の子どもたちや保護者からの祝福も受け、一つの目的は達成したとの満足感がありました。

出発前の結団壮行会では、副知事から激励の言葉を賜り、幸運なことに私が、最後の「ガンバロー三唱」の音頭をとらせていただきました。自分自身も士気が上がりましたし、とてもいい思い出になりました。

秋田県での剣道会場は、県南部の由利本荘市。なんと、市長が剣道教士七段の「剣道の街」ということで、案内役の市職員の方々と大変盛り上がりました。剣道競技の開会式では、最高年

齢の七十九歳の選手の方が表彰されました。背筋を伸ばし凛とした姿勢で堂々と登壇される姿がひと際印象的で、改めて生涯スポーツの剣道の素晴らしさを感じました。

予選リーグでは、強豪の岡山県・栃木県と対戦しました。いずれも僅差の惜敗で、決勝トーナメント戦には進出できませんでした。厳しい強化練習を積んできましたが、実戦の場でなかなか一本が取れず、全国の壁の厚さを痛感するとともに、翌年へのリベンジの闘志が湧いてきました。

夕食時には、大勢の県外の先生方と剣道談話で交流を深めることができ、これも全国大会ならではのいい思い出でした。その中で偶然にも、青年期に対戦した剣友と再会しました。一度、脳梗塞で倒れたものの、剣道を通じたりハビリで驚異的に回復し、今回の出場が叶ったそうで、主治医には、姿勢正しく、裸足でする剣道は、精神的にも肉体的にも充実し、無理なく続けていけば、治癒効果が期待できると言われたとか。ひたむきな旧友の姿に、自分の剣道を見直すいい機会になりました。

いよいよ今年は我が郷土富山県での開催です。「夢つなぐ長寿のかがやき 富山から」。今回のあきた大会での貴重な体験を生かし、今年のとやま大会を盛り上げ、私自身もキラキラと輝ける

ことを目標に、大好きな剣道を健康で心豊かに、続けていきたいと思います。

厳しい練習の成果を見せるべく奮闘。威勢良く面を打ち込む。



快晴のもと、チーム一同で総合開会式の入場行進に臨む。(左端)





剣道

うえしまひろよし

上嶋啓芳さん 60歳 ●参加歴：1回目

福井県剣道界を湧かせた3位入賞

第30回全国健康福祉祭あきた大会の剣道交流大会が9月10日・11日、由利本荘市総合体育館で開かれ、全国から67チームが参加、私たち福井県代表が3位に入賞できました。入賞は1999年、福井県で開催された第12回大会での福井県Aの優勝、福井県Bの準優勝以来で、福井県剣道界にとっては久々の“快拳”でした。

10日は4チームによるリンク方式の予選リーグで、初戦の対宮崎県戦を3対1、2戦目の対相模原市戦を2対0で勝利。2勝したもののリンク方式なので、他の試合結果次第でしたが、リーグ1位で決勝トーナメントに進むことができました。予選リーグ突破を目指していただけない、全員「ホッ」と胸をなでおろしました。

11日の決勝トーナメント1回戦は強豪の三重県。全員慎重に試合を進め、2対1で勝ち、ベスト8を決めました。続く準々決勝の東京都B戦は、シーソーゲームになりながらも2対1で辛勝、18年ぶりの3位入賞が確定しました。準決勝の山口県は2年前に優勝した強豪。先鋒、次鋒と負け、中堅が引き分け。後がない副将が

踏ん張り一本勝ち。大将が二本勝ちで代表戦という苦しい展開の中、大将は気力を振り絞り果敢に攻め続けましたが、時間切れで引き分け、2対1という僅差で惜敗しました。2日間で5試合という熟年には厳しい大会でしたが3位に入賞でき、心地よい疲労感と満足感で会場を後にしました。

4月の県内予選以降、全員揃って稽古できたのは8月の京都での「近府県練成会」のみでしたが、出場6度目の大将、3度目の副将、2度目の中堅というベテラン選手が、初出場の先鋒・次鋒が大会の雰囲気呑まれないようにアドバイスし、良いチームに仕上げてくれたので、全国の強豪を相手に堂々と戦うことができました。

秋田県の競技役員、係員、ボランティアなどの関係者だけではなく、ホテルのスタッフ、バス運転手、お土産販売の方などの温かなおもてなしの心、あふれる笑顔が素晴らしく、清々しい気持ちで3日間を過ごせました。審判も公平な素晴らしいジャッジでした。このような全国大会に派遣していただいた感謝の気持ちと、少しは期待に応えられたかな、という満足感でいっぱいです。

今年はいよいよ「福井しあわせ元気国体・大会2018」が開催されます。福井県国体代表選手をはじめ、各大会福井県選手の今後の活躍をお祈りしております。



左から大将、副将、中堅3選手のアドバイスが生き3位入賞。(右端)



福井県剣道界久々の快拳達成を祝い、後日祝勝会を開催。(左から2人目)



健康マージャン 「恐竜ふくい」チーム

さかぐちけんいち

阪口 健一さん 75歳 ●参加歴：1回目

社会的理解が進み、女性参加者も増加

福井で健康マージャンが話題に上るようになったのは10数年前からである。マージャンはゲーム性が高く、高度な技量と知性が必要な競技である。ただ、私が若い頃は、賭博、イカサマと言った負のイメージが強く、世間から白い眼で見られていたように思う。「賭けない・飲まない・吸わない」の3ナイ条件を取り入れた健康マージャンは、その憲章に「人にやさしく自分に厳しく」との基本的理念を掲げている。この健康マージャンの提唱は、医学的に認知症予防効果があるとの知見が加わり、マージャンの負のイメージが払拭され、社会的に広く理解されるようになってきた。

ねりんピック秋田2017は第30回大会だったが、マージャン競技の初参加は第20回からである。福井県のマージャン技量レベルは高く、優秀な成績を残している。

私が、福井いきいき健康マージャンの会「なごみ会」に所属して1年近くが経過した4月2日、福井県予選会が行われた。参加者120人中

県代表4名（福井2名、武生1名、敦賀1名）が選出され、キャプテンを依頼された。大会までの5カ月間は、鯖江文化センター「いきいき健康マージャンの会」例会に月1回参加させてもらい、競技技量向上を目指し、かつメンバーの友好を深めた。

健康マージャン交流大会は、北秋田市鷹巣体育館を会場に、10日に団体戦、11日に個人戦が行われた。団体戦は、68チーム中31位。個人戦は68人中、3位、21位、32位、48位で、武生の桧尾直樹さんが銅メダルの快挙であった。宿舎は会場近くの伊勢堂岱温泉・縄文の湯で3泊した。室内競技であるが、選手4人が大会を無事に終え、キャプテンとして安堵を覚えた。

大会プログラムより、健康マージャン交流大会の参加選手について調べてみたところ、女性は全選手の17%の46人で、その内訳は政令都市20人、県代表26人であった。予選会の状況から推察すると、女性選手参加がある県と市では特別な配慮がされていると思われる。大会

で配布された麻雀新聞によると、今年の大分国民文化祭では、健康マージャンが競技種目として採用決定であった。福井県としても特別の施策を考える時期に来ているのではないかと考える。

ねりんピック出場は、私の半世紀に及ぶマージャン歴の1つの区切りになった。今後はこれまで以上にボランティア活動に励みたい。

キャプテンとして、「恐竜ふくい」チームをまとめた。
(右から2人目)





グラウンド・ゴルフ 「岐阜中濃」チーム

たかはしてるお

高橋照男さん 74歳 ●参加歴：1回目

秋田の皆さんの心遣いと歓待で、人の心を知る

「秋田からつなぐれ！つらなれ！長寿の輪」をテーマに開催されたねんりんピック秋田2017のグラウンド・ゴルフ大会に、岐阜県選手として参加してまいりました。

9月8日から12日まで4泊5日の行程でしたが、選手6名と、2020年の岐阜県でのねんりんピック開催を見据え、岐阜県グラウンド・ゴルフ協会の役員1名も同行され、地理が全くわからない私たちを引率していただき、力強く感じました。選手は男性3名、女性3名で編成され、出発まであまり言葉を交わしたことはなかったのですが、仲間として本当に楽しく5日間を過ごさせていただきました。

8日朝、岐阜県選手団は名古屋駅に集合し、東京経由で盛岡駅まで新幹線で移動し、その後バスにて仙北市のホテルへ移動しました。夜には岐阜県選手団の仲間と親睦を深めました。ただ、秋田では数日間地震が続き、その余震もあって、心配な日々を過ごしました。

9日には総合開会式が秋田県立中央公園県営陸上競技場で行われ、広大で緑豊かな素晴らしい会場に驚きました。岐阜県選手団として行進し、メインスタンド前では、マフラータオルを片手に持ち上げ岐阜県を力強くアピールしてまいりました。

10日、いよいよ試合が行われました。会場は、日本一のグラウンド・ゴルフ場と言われる大仙市の「秋田太田奥羽グラウンド・ゴルフ場」です。どのような会場かと期待していましたが、見たことがない広さの、芝生コース。しかも試合のスタートには全国的に有名な大曲花火も打ち上げられ、驚きの連続でした。1日目は交歓ゲーム第1・2ラウンドを行いました。芝生コースに経験がない私は芝の状態がなかなかつかめず、スコア23の平凡な記録しか残せませんでした。ホールインワンが1個入りました。

11日は、午前中交歓ゲーム第3ラウンドを行い、午後からは児童・生徒たちと交流ゲームを行いました。地元中学生男子2名と一緒にゲームを行い、ホールインワンも1個で、スコア20で終わりました。

12日、最終日です。秋田空港でねんりんピック秋田2017のスタッフの多数の見送りを受け、帰路につきました。大会を通じて、秋田の皆さんの心遣いと歓待は素晴らしかったです。

今回の経験を活かし、愛好者の仲間と楽しく、助け合いながら今後も精進したいと思います。



仲間として親睦を深めた「岐阜中濃」チームのメンバー。(後列中央)



慣れない芝生のコースに苦戦したが、ホールインワン賞を獲得した。



弓道

かわくぼけんいち

川窪健一さん 68歳 ●参加歴：2回目

呼吸を合わせ、チーム力で掴んだ優勝

ねんりんピックについて、知ってはいたしましたが「年寄りくさいな」と予選会を敬遠していました。ところが3年前、静岡県連の会長から「監督が行けなくなったので代わりに行かないか」とご指名いただいたのがとちぎ大会でした。初出場で監督を務め、成績は決勝2回戦で敗退でしたが、この大会で認識が一変しました。シニアが実に生き生きと輝いているではありませんか。的中するたびに拍手、実に温かい。そして2017年5月、今回は自ら予選会参加を決め、選手に選抜されました。7回出場の猛者から初出場の選手まで7人。偶然にも監督を除き全員が東部地区所属で、稽古を一緒にすることもある顔ぶれです。「このメンバーなら優勝できる」と思ったのは私だけではなかったと思います。

弓道は精神面が的中を大きく左右します。個人の技量と同様、チームの呼吸が合うことが重要です。強化練習では浜松市や静岡市のチームと試合を重ねました。監督は練習試合の設定、会場の確保、控えは準備や段取り等裏方に徹し

てくれました。大会終了後の旅行計画も手分けして行い、自然と団結力が高まってきました。

そして大会へ。現地でのおもてなしが心に残ります。総合開会式の小学生との交流、竿燈、マスゲームと実に素晴らしいものでした。秋田市内では町内をあげて竿燈でもてなしてくれました。夜空に浮かぶ竿燈は美しく、迫力がありました。弓道会場では指輪や漆箸の製作体験があり、普段では絶対にできない貴重な体験を楽しみました。また鍋の振舞いには毎回長蛇の列ができていました。

さて交流大会本番。我が静岡県の出番は46番目。全員が普段どおりの力を出して、トップの成績で決勝トーナメントに進出しました。その後4回の対戦を制し、思いどおり優勝することができました。誰も大崩れしなかったことが勝因ですが、信頼しあえたチーム力の賜物だと思います。その夜の祝勝会は知り合いが予約した店で、きりたんぼ鍋と秋田の銘酒でお祝い。実に美味しく何度乾杯をしたことでしょう。

翌日から男鹿半島や角館、秋田内陸縦貫鉄道、弘前城、恐山、大間を経て浅虫温泉。帰宅の途に付いたのは実に8日目でした。健康だからこそ弓が引けます。健康に感謝。共に戦った仲間

に感謝。何より8日間もの勝手を許してくれた家族に感謝です。「ねんりんピックって素晴らしいよ。楽しいよ。予選会に行こう!」と皆を誘いたいと思います。



「このメンバーなら優勝できる」の確信どおりの結果に。(後列左端)



呼吸を整え、心を収める。(左)



ダンススポーツ 「富士山」チーム

すぎやまのりよし

杉山典克さん 61歳 ●参加歴：1回目

一生の思い出 —ダンス競技人生での目標を達成

真夏を思わせるほどの好天に恵まれ、総合開会式が挙行された。前日は震度5の地震で全国からの選手団を手荒く歓迎してくれたが、開会式は華やかに、感動的に進行し、竿燈まつりの雄大な演目でフィナーレを迎えた。どうしても来てみたかった土地秋田県で、見てみたかった竿燈まつりを体現できて感激した。

ダンススポーツは秋田県立体育館という大きな会場で行われた。ここでも歓迎行事は続き、重要無形民俗文化財の西馬音内盆踊りや、白百合保育園一輪車クラブの華麗でスピーディーな演技でもてなしを受けた。

競技はラテンの種目別個人戦から始まった。チャチャチャは145組、ルンバは149組のエントリーで1次予選が始まり、チームの仲間たちはドンドン勝ち上がり、スタンダード代表選手までも準決勝に勝ち上がる大健闘で、なんと私たちがチャチャチャで優勝、ルンバで準優勝することができた。全国優勝はダンス競技人生での目標だったので嬉しくて嬉しくて、ねんりん

ピックという人生最後であろう大会で達成できたことに感無量だった。

午後からスタンダードの個人戦が行われ、ワルツ179組、タンゴ180組の参加で競技が行われた。4次予選を終えた時、すでに20曲を踊っており、これからは体力勝負となるも、ラテン代表の私たちはそろそろお役御免だろうと思っていた。しかし、決勝まで踊ることになり、結果、ワルツ5位、タンゴ6位と、これまた信じられないような好成績を得ることができた。ここまで24曲。インターバルの時間に、おもてなしマッサージを受けて団体戦に備えた。

迎えた団体戦。全国から46チームが参加し、1～3次予選、準決勝、決勝と戦っていく。まずは1次予選だが、最悪なことに脚が吊った!! 急ぎマッサージを受け2次予選へ。皆個人戦を頑張り過ぎたのかチーム全体の動きが硬い。監督が用意してくれた富士山のプラカードにタッチしながら、チームが一丸となって踊り応援した。すると皆、回を追うごとに動きが良くなり、決勝進出のコールに熱気は最高潮に達した。これで肩の力が抜け、決勝は皆がのびのびと演技。全国4位と過去最高であろう成績で凱旋することができた。

最後に、お世話いただきました県連盟、市実行委員会、市民の皆様にも厚くお礼申し上げます。一生の思い出をありがとうございます。



チーム一丸となり、全国4位の快挙を達成した「富士山チーム」。(右端)



ペアで息のあった演技。チャチャチャでは優勝を掴んだ。(左)



サッカー 「愛知県シニア 60」チーム

おくむらまさひこ

奥村昌彦さん 63歳 ●参加歴：4回目

多くの喜びと多くの思い出、多くの支えに感謝して

定年退職する前に、先輩からねんりんピックの参加体験談を聞いて、いつかは自分も参加してみたいと、参加資格が得られる日をとても楽しみにしていました。そして「愛知シニア」の仲間になって4年。昨年も愛知県社会福祉協議会開催の「結団式」に出席することができ、担当者から大会参加の詳細を丁寧に教えていただきました。私たち選手団への多岐にわたるご配慮により安心して大会に臨むことができました。

「愛知シニア」は、「広く他地域のサッカー仲間と交流したい。」と願うメンバーが集まったチームで、愛知県シニア Over-60 リーグに参加しています。毎年メンバーが入れ替わり、メンバーの特性を生かしたチームづくりがなされます。大会目標は、やはり一番輝く色のメダルです。今回、大会のためのチーム練習は行わず、県内外のシニアチームとの練習試合を3回行いました。しかし、都合により選手全員が揃うことが出来ず、チームとして不安を抱えたまま、ねんりんピック本番を迎えることとなりました。

迎えた大会初日、総合開会式のメインアトラクションとして披露された美しく雄大な竿燈は、今でも強く脳裏に焼き付いています。また、多くのボランティアの方々のおかげで、とても楽しい時間を過ごすことができました。

翌日からの交流大会では、東京都、広島市、沖縄県と対戦しました。強いチームばかりでしたが、メンバー全員の力で3戦全勝することができ、目標の達成と他県のサッカー仲間と愛

知のサッカーを伝えることができました。試合は、秋田市八橋運動公園で行いましたが、とても手入れの行き届いたピッチを用意していただき、会場関係者の方々には深く感謝しています。

帰路の途中で行った打ち上げ会では、苦しかったけど楽しかった試合の話題で大いに盛り上がり、時間を忘れて試合の余韻に浸りました。

今回のあきた大会では、忘れられない思い出がたくさんできました。中でも12年ぶりに対戦した沖縄県チームとは、思い出話に花を咲かせ、互いに当手を懐かしむ時間を過ごせたことは、サッカーを続けてきたご褒美をいただいたような気分でした。

このような機会を与えていただいた、大会関係者並びに愛知県社会福祉協議会の方々に深く感謝しています。今年のとやま大会にも参加できるように一層の精進に努め、これからの人生をサッカーとともに歩んでいきたいと思っています。



総合開会式で披露された竿燈。忘れられない思い出となった。



将棋 うま 「美し国三重」チーム

はやし しんいち
林 眞市さん 62歳 ●参加歴：3回目

頭脳スポーツの輪の広がりに期待

ねりんピックにおいて将棋は、文化交流大会に位置付けられています。本来将棋は、頭脳スポーツです。本大会は、ずっと将棋を指してきた者にとって、同等の対戦相手と互角に勝負ができる数少ないイベントであり、明らかに高齢者の生きがいにつながっていると思います。年齢を重ねるごとに脳の筋肉の回転が遅くなり、若い人には勝てなくなってしまうからです。

また、ねりんピックでは、他のスポーツ競技と同じレベルで取り上げられていることに、本大会の素晴らしさを感じています。これからは、チェス、バックギャモン、テキサスホールデムポーカー等も競技種目となって、頭脳スポーツの輪が広がっていけばいいなあと思います。

開会式は、とても思い出深いものとなりました。

た。私たちがマラソン等の選手と共に、グラウンドを行進をするのは、やや場違いな感もありますがとても貴重な体験で印象に残るものとなっています。普段は、スタンドから眺めるしかありませんが、逆に見られる側になることは、ドキドキもしますがとても嬉しいものです。

今回、秋田県で開催されるにあたり、地元の方の細やかな心配りをいただきました。また、監督会議における山崎審判長のルール説明は、重箱の隅まで配慮がなされており、とても素晴らしいものでした。一口に「将棋」といっても、持ち時間等によっては別競技に変身することもあります。今大会を機に、ねりんピックにおける将棋が、ルールの発信源になればいいなと思っています。



競技が行われた大仙市のマスコットキャラクター「まるび」ちゃんと。



最善手を思案中。個人戦ではブロック1位の栄光を掴んだ。(右端)



太極拳 「みえシンフォニー」チーム

やまさき や え こ

山崎八重子さん 68歳 ●参加歴：1回目

スポーツで「未来」が変わる！

初めて「ねんりんピック」という言葉を耳にしたのは4年前、先輩方の集団演武を見た時でした。太極拳は個人演武が一般的なのですが、音楽に合わせて7人の呼吸がぴったりと合い、優雅に演武しているのを見て、とても感激したものでした。そのねんりんピックのあきた大会に「出場しませんか」と声がかかったのですから、夢のようでした。

2016年2月から選手7名、監督、コーチ各1名総勢9名の長い戦いが始まりました。まずは基礎の動作練習から始まり、音楽に合わせたフォーメーション作り、全員の手足の動きが合うまで週に2回ずつ練習を重ねました。ときには辛くなることも言い合いお互いに切磋琢磨しながら……。練習を重ねるごとに仲間意識も高まり絆も深まってきました。不安もありましたが、強く勇気付け、一歩前に押し出してくれたのは、練習期間中に他界した夫の「今できることを精一杯頑張ってこい」の一言でした。

「いざ！ねんりんピック秋田2017を楽しもう」と、未だ見ぬ秋田へ出発。開会式では地元の「まごころキッズ」との温かい交流をしたり、他競技出

場者と交流したり、静岡県の手から記念のタオルをいただいたりと、アトラクションの素晴らしさに参加者全員感動の連続でした。県民一丸となつての「おもてなし」に感謝の一言です。

交流大会当日皆、緊張で顔が強張っていましたが、会場に入場する時には地元の関係者の方々の大きく鳴り止まない拍手、やんわりした方言に癒されて落ち着きを取り戻すことができました。我が「みえシンフォニー」チームの出番は午後1番でした。全員で、悔いのない演武をしようと、4分に全てをかけました。不思議と落ち着いて客観的に見ている自分がいてびっくりでした。監督から「皆落ち着いていつもどおりにできてよかったよ」と言われ、皆で1年半の練習の達成感を覚え、喜びあいました。そして練習の日々を振り返りながら、すでに次の意欲を言い合いながらババヘラアイスに舌鼓。

今回の太極拳高齢者賞は、90歳の男性とのこと。まだまだ次の機会にと目標がつかえません。いつか、三重県で「ねんりんピック」が開催される時は、ぜひお手伝いしたいものです。

「スポーツで「人生」が変わる」「スポーツでこれからの高齢者の「社会」が変わる」「スポーツでこれからの高齢者の「未来」も変わる」——こんなことを強く感じた、あきた大会でした。

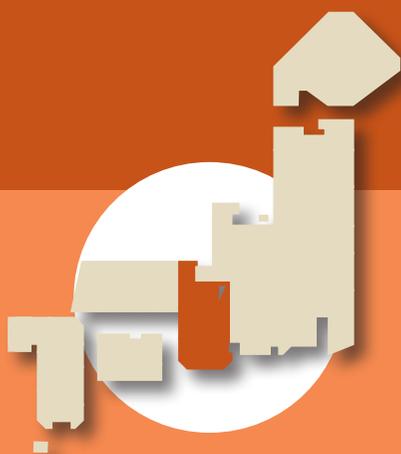


試合を終え、自然と笑顔が溢れるチームのメンバー。(前列右端)



ババヘラアイスを食べながら、次の目標を語り合う。(左から2人目)

近畿



滋賀県

反甫彰男さん



ソフトボール

40

岡寄幸子さん



ウォークラリー

41

京都府

清水正夫さん



マラソン

42

兵庫県

横田 均さん



剣道

43

奈良県

林 孝光さん



ゲートボール

44

和歌山県

西原哲男さん



弓道

45

大阪市

岡本勝二さん



ペタンク

46

堺市

小西サヨ子さん



卓球

47

橋本幸太郎さん



剣道

48



ソフトボール 「長浜シニア」チーム（監督兼選手）

たんぼあきお

反 甫 彰 男 さん 76 歳 ● 参加歴：4 回目

「チームワークと継続」で打ち勝ち 11 年ぶりの出場

私たち「長浜シニア」は、2006 年の「しずおか大会」以来、11 年ぶりの出場を果たし、チーム全員で大喜びしました。

チームの平均年齢が 70 歳と高齢化した中で、滋賀県予選に臨み、あれよあれよという間に代表となれたのは、老体にムチ打っての週 2 回の練習と、チームワークがあったからこそ。年齢に関係なく、凡ミスや気合の入っていないプレーには注意が入り、好プレーをすれば褒めておだてるのが、いつもの練習風景です。試合中はエラーや三振をしても、一生懸命プレーした結果として、絶対に怒らないことにしています。「ドンマイ・ドンマイ、バッティングで返せ」と励ますことをメンバーに徹底させ、チームワークを最優先に考えています。走れば足がもつれるし、ボールが飛んできても老眼で見失ってしまうのは、全員が認識し、理解しているのです。「明るく楽しくソフトボールをやること」が私たちチームのモットーです。

大会当日は晴天に恵まれ、1 万人余の選手団が参集した素晴らしい総合開会式では、地元の子どもたちによる秋田ならではのアトラクションに感動しました。美味しい昼食弁当をいただいた後、ソフトボール会場の由利本荘市へ移動し、開始式に参加しました。全国より選ばれた 65 チームが勢ぞろいし、主催者側から励ましの言葉をいただきました。高齢者表彰があり、驚いたことに、80 歳以上の参加者が 11 名もいました。最高齢者は 85 歳で、すごい人があるものだと感心し、

これからもソフトボールを続けようと励まされた次第です。

翌日の交流大会初日の 1 回戦は千葉市代表と、2 回戦は山梨県代表と、それぞれ関東の強豪チームと互角に戦い、2 連勝という過去にない成績を上げて選手一同大喜びでした。宿舎で祝杯を上げたい気持ちを抑えるのに苦労しながら、翌日の試合に向けてミーティングで気合を入れました。3 回戦の相手は、高知県代表で教職員 OB のチームです。フィールディング練習から「格」の違いを感じ、予想通り歯が立たずに完敗。しかし、その高知県代表チームが優勝したので、挑戦できただけでも満足でした。

「ねんりんピック秋田 2017」に参加し、ソフトボールで過去を上回る「ベスト 16」に残ったことに、チーム全員満足しました。長年ソフトボールを続けてきた成果で、人生における記念すべきねんりんピックとなりました。開催していただいた秋田県およびソフトボール競技開催の由利本荘市でお世話になった関係諸団体の皆さま、そして、出場の支援をいただきました滋賀県社会福祉協議会、選手の地元からの激励に感謝を申し上げます。



大会初日の 2 連勝の後、チーム全員で記念撮影。(前列右から 4 人目)



ウォークラリー 「びわこ」チーム

おかざきさちこ

岡崎幸子さん 70歳 ●参加歴：3回目

武家屋敷が並ぶ「みちのくの小京都」角館を歩く

2017年のねんりんピックは秋田市で開かれ、ウォークラリーは仙北市で開催されました。

私たち5人はママさんバレーボールと一緒にプレーしてきた40年来の仲間で、ウォークラリーの大津市予選には毎年挑戦しています。全国大会への出場は札幌、長崎に続き、今回は3回目です。滋賀県から東京経由で初めて秋田新幹線に乗って秋田市へ。そこで大勢の方に出迎えていただき、感動するとともに大会の始まりを感じました。

総合開会式は快晴に恵まれ、我が滋賀県選手は県旗を持って琵琶湖をアピールしました。アトラクションはいろいろ工夫が凝らされ、特に竿燈まつりのパフォーマンスは圧巻でした。

さて、ウォークラリーは、開会式の最中はすごい雨でどうなることかと案じていましたが、幸いにも始まる前には小雨になり、我がチームも出発しました。

私たちが住んでいる地域は、比叡山や琵琶湖に

挟まれ、細長くアップダウンがあります。本大会では、角館周辺の歴史を感じさせる街を歩きながらも、時間と難しい問題の解答にせかされて、ゆっくり散策気分を味わえないのは少しもったいない気がしました。桜の時分にもう一度訪れようと誓い、競技に挑んだ結果、成績は初めての銅メダル。大津に戻って家族に見せたところ、じっくり喜びがわいてきました。

せっかく東北に来たのだからと宮城まで足を延ばし、大震災の跡地を訪れました。何もない広い大地を目の当たりにして被害の大きさを実感し、人ひとりいない現実を見て、復興はまだまだ遠いように感じました。

ウォークラリーに参加した5人のメンバーはもう若くはないのですが、今後もバレーボールを生涯スポーツとして後輩たちのサポートができるよう願っています。その前に、まずは健康でいられるよう努めたいと考えています。



40年来のバレー仲間と挑戦し、3回目の出場で見事銅メダルを獲得。(後列左)



マラソン 3km

しみずまさお

清水正夫さん 80歳 ●参加歴：5回目

ねんりんピックへの参加が「生きる目標」に

私が初めてねんりんピックに参加させていだいたのは、2002年の「第15回ふくしま大会」でした。ソフトバレーボールの京都府代表として、全国の人たちを相手にプレーを楽しむ醍醐味と同時に、開会式の興奮をいまだに忘れることができません。

以来、「もう一度ねんりんピックへ」との思いで、ソフトボールやソフトバレーボールの仲間とともに京都府予選会に挑戦したのですが、どうしても代表になることができず、ならばと「マラソン」という個人種目に方向転換をすることにしました。

おかげで、2010年の「第23回いしかわ大会」、2013年の「第26回こうち大会」、2015年の「第28回やまぐち大会」、そして今回の「第30回あきた大会」に参加させていただきまして、本当に、

ありがたいことだと感謝申し上げる次第です。

さて、今回のマラソン種目は、秋田県の最北東部に位置する鹿角市の総合運動公園総合競技場がマラソン実施会場でした。当初、高齢者のマラソンコースだから、平坦なコースで、大勢の市民の方々の声援を受けながら楽しく走る姿を予想していたのですが、実際は、スタート直後から登り勾配で、その後もアップダウンが続く山の中の峠道。応援の人の声もまばらで、最後のグラウンドの400mトラックだけが平坦地というきびしいコースを、とにかく完走しました。

最後に、「マラソン」とは言っても、たったの3kmや5kmを走るのに、わざわざ秋田県まで行く価値があるのかどうかという問題ですが、私は「ある！」と思うのです。それが楽しいのです。なぜなら「ねんりんピックに参加する！」というのが「生きる目標」なのです。そのための努力・節制・精進・トレーニング、そして健康の維持・管理……それが生きがいであり、喜びです。「ねんりんピック」に心から感謝しています。



最後はピースサインで、笑顔のゴール。3kmの距離を走り抜けた。



『走りきて 走り続ける
喜びを 感謝とともに
走り続けん』

「京都府」チームの選手とともに。(右)



剣道 (監督兼選手)

よこた ひとし

横田 均さん 70歳 ●参加歴：3回目

大切なのは勝つことではなく、心が豊かになること

「第30回全国健康福祉祭あきた大会」の剣道交流大会では、67チームが出場するなか5位に入賞、念願の優秀メダルをいただき、私の夢が実現しました。

高校で剣道を始め、子どもの成長とともに剣道に再会、剣道教室での指導45年のキャリアですが、友だちに誘われ、60歳を過ぎて全国大会出場の機会が訪れました。それ以降も稽古に励み、70歳の今年、兵庫県チーム選考会で監督・交代選手として大会に出場することになりました。嬉しかった、孫も喜んでくれました。

兵庫県内各地から選ばれた選手は7名。“仲良く楽しく”が一番のこの大会、稽古をたくさんして酒も飲み、チームの意思疎通を図り、良い成績を望みました。

大会までは、稽古会や県民会館で副知事激励をいただき結団式に全員で参加し、神戸チームとの稽古会や京都武道館での合同稽古会にも参加しました。大会前夜には、秋田市内のホテルで兵庫県チーム167名の結団式に出席しました。その後、宿舎に帰り、夜遅くまでチーム7名の結団式、

飲む人も飲まない人も遅くまで剣道談議をしていたら地震が起こってびっくり。

試合当日は、朝早く剣道着に着替えてバスに乗り、会場に着くと同時に練習会場に直行、稽古で汗をかき開会式に出席しました。激しい稽古に他のチームの選手はびっくり、7名の選手は本当に一生懸命に稽古しました。その結果、予選1試合目は簡単に勝つことができました。予選2試合目は強豪の福岡県に勝利。翌日の決勝トーナメント進出の16チームに入ることができました。

決勝トーナメント第1試合の相手は、地元秋田県チームです。誰もが勝てると思っていなかったのですが、次鋒・中堅が勝ち、副将が本当にすごい戦いで審判も困ったほどの引き分けで勝利しました。続く山口県チームとの戦いは、勝ると皆が思っていたのですが、心の隙が生まれ、チームワークが悪く敗戦となりました。

結果はともあれ、本当に楽しいひと時を過ごし、交流大会後には乳頭温泉に浸かり、飲んで話して、試合の疲れを癒しました。ねんりんピックは勝つことではなく、年寄りが参加して心が豊かになる大会です。この大会を通して「剣道とは人間形成であり、立派な日本人をつくること」だと再認識しました。物が豊かで心が豊かでない現代社会、地域の進展に、心の平和に寄与して残りの人生を生きたいと思います。「ねんりんピック

秋田2017」、ありがとう。



手に汗にぎる熱戦が繰り広げられた。兵庫県チームは5位と健闘。



兵庫県選手団の入場行進。みな、気合い十分だ。



ゲートボール 「チーム香芝」

はやし たかみつ

林 孝光さん 85歳 ●参加歴：1回目

感動の初出場、次は忘れ物(勝利)を取りに！

ゲートボールのスティックを持ってから25年の歳月が経過し、歳を重ねてきた今日まで、ねんりんピックへ出場する同僚、先輩方を祝福してきました。自分自身も一度はこの舞台を味わいたいと希望を抱きながらの毎日でしたが、今年、長年の念願であった県の予選大会で幸運にも県代表権を得ることができました。

9月1日、奈良県社会福祉総合センターで奈良県選手団103名の結団式が行われ、「ねんりんピック」に参加できる喜びと責任を感じました。そしていよいよ9月9日に、秋晴れのもと「ねんりんピック秋田2017」の総合開会式が行われました。開会式では、なまはげ太鼓や創作ダンスなどのアトラクションがあり、選手団入場では、秋田県の小学生に先導されて、47都道府県と20の政令指定都市の選手団1万人が行進しました。光栄にも私が入場行進時の奈良県のアピール役に任じられ、奈良県選手団103名の健闘を誓い、県旗を先頭にせんとくんの小旗を振りながら元気いっばいの行進をし、感動の一日を終えました。

開会式の後にはゲートボール会場である大館市に移動し、宿泊先のホテルルートイン大館で他

府県の選手との懇親会が行われました。日本三大地鳥のひとつ比内地鶏を使ったきりたんぽに舌つづみしながら歓談のひとつきを過ごし、交友を深めながらの有意義な時間を過ごすことができました。

その翌日から、ニプロハチ公ドーム（大館樹海ドーム）でゲートボールの試合が始まりました。ニプロハチ公ドームは、樹齢60年以上の秋田杉2万5千本を使った屋根が特徴的な国内最大の木造建築であり、雄姿輝く美しいドームでの競技会となりました。予選会の結果は1勝2敗で、残念ながら決勝トーナメントには進むことができませんでした。反省会は次回の一歩前進を誓って終了いたしました。

大会終了後は、ホテルの案内係の進言で伝統工芸品の見学に向かいました。到着してみると臨時休業でしたが、店主の計らいで見学させていただくことができました。日本三大美林の秋田杉を薄く削ぎ、熱湯につけて柔らかくして曲げ加工をした伝統工芸品で、弁当箱や食器のほか、現在では柾目の美しさで花器やインテリア商品などにも加工されているのだとか。こうした店主の説明を聞きながら、商品の鑑賞を楽しみました。

最後になりますが、奈良県社会福祉協議会をはじめ関係者の方々には大変お世話をおかけいたしました。厚く感謝申し上げます。



チームの心をひとつにして、ゲートボールの試合に挑んだ。(中央)



地元の小学生から贈呈された横断幕を持つての入場行進。



弓道 (監督兼選手)

にしはらてつお

西原 哲男 さん 62歳 ●参加歴：1回目

決戦の舞台で緊張が途切れ、辛くも準優勝

和歌山県は弓道人口が少なく、今回参加した5名の選手は顔見知りですが、日頃の練習会場が3カ所に分かれているため、大会前に一緒に練習する機会は一度しかありませんでした。その上、私は旗手・選手・監督と三役を務めることになっていたので少し不安がありました。壮行式で知事から「頑張ってきてください!」と県旗を渡されると、ベストを尽くそうと心に誓いました。

総合開会式の集合場所に着くと、2年後にねんりんピックが行われる私の地元和歌山県田辺市の視察団がみえていました。みんなから激励を受けて、緊張するも楽しい大会になる予感がしてきました。

今回は67チームが参加し、的中上位16チームが決勝トーナメントに進むことができます。昨年も我が県は決勝トーナメント戦まで残っていたので、最低でもここまでは残りたいと思いました。

いよいよ予選の1回目が始まりました。私が先頭で、後ろを振り返り「よろしくお願いします」と声をかけると、他の4人が続いて射場に入り

ます。私の最初の1本目が的中、後の4人もまずまず的中で順調なスタートが切れました。予選2回日も終わり、上位8位の成績で決勝トーナメントに出場が決まりました。

決勝トーナメントの1回戦の相手は、予選で最高の中を出した地元秋田県チーム。負けを覚悟で臨みましたが、相手チームがまさかの失速で勝利がこちらに転がり込んできました。2回戦も勝ち進み、次の準決勝ではいつものように後ろを振り返り、ひとこと言いました。何を言ったのかは思い出せませんが、みんながその言葉で笑顔になり、実力以上の的中を出して勝利することができました。決勝戦では「よくここまで頑張ったね!」とみんなで労をねぎらいながら決勝の舞台へ。今考えてみると、このひとことが緊張を途切れさせてしまったのかもしれない。勝てない相手ではなかったのに、負けて準優勝に終わってしまったのが残念です。しかし、宿舎での夕食時に県の担当者と隣同士になったので結果を報告すると、大変喜んでくださり、大盛り上がりの楽しい食事会になりました。

最後になりましたが、秋田市の皆さん、秋田弓道連盟の皆さんに大変お世話になり、ありがとうございました。2018年には地元和歌山県田辺市で弓道大会が行われます。十分になおまて

なしができるよう、これから準備を進めてまいります。



5人の先頭に立って弓を引く。代表としてチームを引っ張るのも役割のひとつ。



総合開会式では騎手の大役を無事に務めた。



ペタンク 「千里なにわ」チーム

おかもとかつじ

岡本勝二さん 80歳 ●参加歴：2回目

大会後にますますふくらむペタンクへの熱き思い

今年初めて、大阪市の代表として、「ねんりんピック秋田2017」のペタンク交流大会に参加することができました。

総合開会式では、選手団ごとに統一された帽子、ユニフォームを着用し、沖縄県を先頭に大阪市は28番目に入場行進を行い、その模様を間近に見ることができて、おおいに感動しました。私は、選手団の入場行進に合わせて、短い時間でしたがメインスタンド前の選手団紹介コーナーで大阪市の魅力を全国に発信し、大任を果たすことができて、良い思い出となりました。

翌日のペタンク交流大会は、予選リーグ戦で2勝1敗の成績を取りましたが、得失点差により地元秋田県チームが1位となり、決勝トーナメント戦に進むことができませんでした。

昼食時には、秋田県チームの皆さんと隣り合わせになり、お菓子や果物をいただき、ペタンクの話やお互いの地元の特産品や観光地の話など、おおいに盛り上がり、和やかなひと時を過ごすことができました。このことをきっかけに、全国大会で他府県の選手の方と接する時は、大阪市代表として何をなすべきかを学ぶこ

とができました。

大会後も毎日、ペタンクで日々を楽しく過ごしており、この競技の魅力をどのようにして伝えていけばいいのか腐心しているところです。ペタンクは老若男女誰もが、いつでも、どこでもできる、フランス発祥の生涯スポーツとして知られていますが、日本ではいま一つ普及が進んでいないように感じています。私は機会あるごとにペタンクの魅力を伝えていくため、学生や社会人の方、役所の方などに広く知っていただくこと、資料や大会の案内を作成して配布し、普及活動をしています。

あるペタンク大会では、真夜中2時に起きて、遠く愛知県から大阪府熊取町の大会に参加された95歳の女性の方、また、ある大会では、がんが余命1年の宣告を受けた83歳の男性の方が、抗がん剤の投与を受けずにペタンクを続けている姿を拝見しました。このような人たちと一緒にプレーすることで、生きがいをもつことの大切さ、健康のありがたさなど身をもって知ることができ、勇気がわいてきます。これからもますます頑張っていきたいと思います。



老若男女、誰もが楽しめるペタンクの魅力を多くの人に知ってほしい。



卓球 「ナニワやさかい」チーム

こにし 小西 サヨ子さん 69歳 ●参加歴：5回目

競技を通して広がる、人と地域の交流の輪

「ねんりんピック秋田2017」の総合開会式では、堺市選手団を代表して、堺市のアピールを担当し、貴重な体験をすることができました。

私が住んでいる堺市には、世界遺産の暫定一覧表にも載っている古墳群があり、古くは鉄砲づくりなどに代表されるものづくり産業、千利休・与謝野晶子といった先端的な文化の発信などで栄え、「ものの始まり、なんでも堺」と言われています。全国の皆様に伝えたいことはいっぱいありましたが、時間の都合ですべてを伝えられずとても残念でした。しかしながら、いただいた晴れの舞台はとても気持ちよかったです。

開会式の前夜の地震、期間中ずっと続いた雨模様など、自然にも大歓迎されましたが、総合開会式のアトラクションは竿燈まつりをはじめとしたさまざまなパフォーマンスが素晴らしく、思い出の1ページとして深く記憶に残りました。

卓球交流大会では、全国の代表として参加された皆様の気力、体力、技術がすばらしく、私たちのチームも最善を尽くしましたが、思うよ

うな結果が得られませんでした。

帰路、黄昏時を少し過ぎて暗くなりかけたそのとき、新幹線の車窓から「黄昏の富士山」を見ることができ、一同大歓声をあげました！珍しい富士山のシルエットに遭遇でき、とてもラッキーでした。堺から東北秋田まで鉄道網の充実もしみじみ感じることができ、積極的に出かけることにより、いろいろな楽しみが待っているのだと実感しました。

また、卓球競技会場の横手市の担当の皆様には本当に素晴らしいおもてなしをしていただき、帰阪の日には駅まで見送りに来てくださいました。少し時間がありましたので、横手市の「かまくら」も体験でき、楽しい5日間でした。

堺市では、卓球競技を通じて府県を越えた交流がたいへん盛んです。大阪府、大阪市はもとより、滋賀県、京都府、兵庫県、神戸市、奈良県、和歌山県の人たちとは毎月1回、大阪市内で開催している大会で顔を合わせております。その中でも特に、大阪府下の3チームとは行動を共にすることが多く、ねんりんピックを通して知り合った人が大会に参加している時は、一緒に練習に励み、お互いに切磋琢磨してきました。

このように、競技を通して人と人が親しくなり、地域と地域が近くに感じることができるねんりんピックは大きな役割を担っているのだなど、感じております。これからも、ねんりんピックに多くの方が参加し、全国の皆さんと交流の和を広げ、素敵な体験をしていただけることを祈念しております。



競技は残念な結果に終わったが、温かいおもてなしを受けて楽しい5日間に。(前列右から2人目)



剣道 (監督兼選手)

はしもとこうたろう

橋本幸太郎さん 71歳 ●参加歴：2回目

旗手の大任を果たし、温かい拍手に感激

高校生の時に剣道を始め、71歳になった現在も剣道の稽古を続けています。堺市が政令指定都市になって初めてねんりんピックに出場できるようになった2007年の「第20回いばらき大会」から、全国健康福祉祭堺市実行委員会の剣道競技の委員として現在も活動しています。また、「第20回いばらき大会」では剣道競技で出場しました。

その後、忙しくて出場の機会がありませんでしたが、今年は剣道競技の控え選手と監督を兼ねて出場する機会を得ました。また、総合開会式行進の堺市選手団の旗手も任されることになり、選手団の先頭で行進できることはたいへん光栄なことで、しっかりと責任を果たすことが大事と総合開会式に臨みました。

開会式の選手団入場行進は、47都道府県と20政令指定都市の選手団が南の沖縄から順番に行進します。堺市は29番目で、地元の高校生が持つプラカードを先頭に、秋田まごころKIDSの小学生と共に、緊張するなかで行進が始まりました。

メインスタンド中央に來ると、堺市を紹介するアナウンスが流れるなか、堺市の旗を堂々と持って行進。緊張する瞬間でしたが、観客の皆様の温かい拍手を聞き、一味違う感激を味わいながら大任を果たすことができました。

剣道競技予選リーグは、

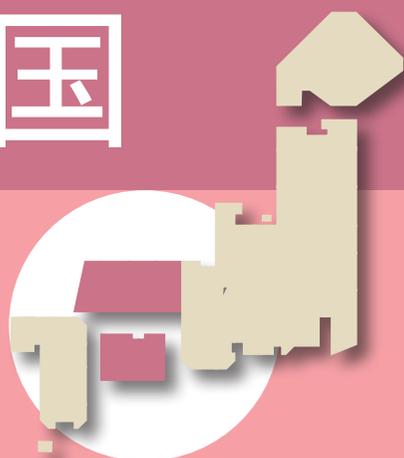
由利本荘市総合体育館で行われました。堺市チームの派遣選手6名は、ねんりんピック出場が決まって以来、毎週木曜日に集まって稽古を行い、チームワークの強化を図ってきましたが、残念ながら、決勝トーナメントに出場することができませんでした。全国から集まった剣士は、気力、体力および技術に素晴らしいものを持っており、よく稽古をされているようで、稽古を維持していくことの大切さも実感しました。今後は、予選リーグを突破し、常にベスト16入りを目指し、優勝候補になるチームを目指したいと思います。

「ねんりんピック」では、横断幕やのぼり旗の作成に加えて、共に入場行進していただいた秋田まごころKIDSの小学生、入場行進のプラカードを担当していただいた高校生、地元の皆様の温かいおもてなしを受け、たいへん楽しい経験ができましたことを心より感謝申し上げます。



優勝候補となるチームを目指そうと、心新たに。(左端)

中国・四国



鳥取県

坂口美江さん



卓球

50

福島 覚さん



水泳

51

島根県

友村光男さん



水泳

52

松本京子さん



ペタンク

53

徳島県

森 弥生さん



マラソン

54

八木一夫さん



軟式野球

55

香川県

杉村範子さん



卓球

56

横山リウ子さん



ペタンク

57

広島市

山根繁徳さん



囲碁

58



卓球 「わかとり鳥取」チーム

さかぐち み え

坂口美江さん 65歳 ●参加歴：2回目

試合も観光ものびのび楽しんだ「あきた大会」

ねんりんピックを初めて知ったのは、2年前の「やまぐち大会」予選の因伯シルバー大会。予選の部Aと予選外の部Bがあり、60才からラージ卓球を始めて3年目だった私は、当初、ねんりんピックなんてまだ無理と思い、Bの部に出るつもりでした。ところが、ある先輩に「勝たないと出場できないのだからダメ元で気軽に出てみたら？」と勧められチャレンジすることに。ふたを開けてみると、Aの部の申込みは3人で、全員予選通過。喜んだのも束の間、やまぐち大会は卓球チームが入場行進で鳥取県選手団の紹介をする番とのことで、何もわからない私がなぜかその紹介役に。入場行進を横目にマイクの前に立ち、大勢の選手・観客の前で鳥取県選手団の紹介をして、精神的に役目終了という感じでした。

2年後の今回、秋田市での総合開会式では、地元の小学生が各県の応援に来てくれたり、聖

火りレーに拍手をしたり、ゆっくり楽しめました。ただ9月の秋田はまだ暑く、半日以上を炎天下で過ごすのは、還暦過ぎの私たちには少々こたえましたが。

大会初日の第1次予選は3チームのリーグ戦。運良くオール70歳以上の関東G県チームに完勝し、四国K県チームに2勝2敗の後、最後のシングルス、我が鳥取チーム期待の星兼監督が1-1の後ファイナル、見せ場を作るもののセッティングで残念ながら敗れてしまい、2位通過となりました。

翌日の第2次予選は、抽選で決まった3チームのリーグ戦。近畿N県チームに3勝2敗で勝ったものの、九州K県チームに0勝5敗で完敗でした。ねんりんピックで勝ちに来ているチームと、参加することに意義ありのチームの差でしょうか。でも我がチームは全員ののびのびプレイでき、日頃の練習の成果は一応出せたのではと思っています。

予定通り（予想通り？）午前中で終了したので、午後から蔵の町・増田観光へ。翌日は生憎の雨ながら角館観光へ。朝、ホテルから横手駅に行くのになぜか反対方向へ歩き、近くにあった消防署の方に聞いて引き返したり、空港で乗り場に迷ったり、弥次さん喜多さんのような出会いとハプニングを経験しつつ、ねんりんピックのもう一つの楽しみ、観光をさせてもらいました。

歓迎していただいた秋田の皆様、引率していただき試合会場も回られた社協の皆様、そして一緒にチームを組んだメンバーの皆様、いい経験をさせていただき本当にありがとうございました。



日頃の練習の成果を発揮し、のびのびとプレイすることができた。
(後列右から2人目)



水泳 自由形 25 m、自由形 50 m、 混合メドレーリレー、混合フリーリレー

ふくしま さとる

福島 覚さん 80歳 ●参加歴：3回目

とうとう獲得、夫婦そろって金・銀メダル

私たち夫婦の水泳歴は、およそ12年になります。健康に良いのではないかという軽い気持ちで始めたのですが、鳥取県の「マスターズ水泳大会」、さらには全国で開催される「ねんりんピック」に出場するという目標が加わると、少しでも早くカッコよく泳ぎたいという気持ちで練習に熱が入るようになりました。もし、健康管理だけが目的で大会参加という目標がなかったら、10年以上も続けてこられたかどうかわかりません。

「ねんりんピック」出場は、今回で妻が4回目、私が3回目となります。妻は、私と同様60歳を大幅に超えてから水泳を始めたのですが、毎回金メダルを獲得するという県内でもめずらしく華々しい結果であった一方、私はなかなかメダル獲得までには至りませんでした。しかし、今回のあきた大会では初めて夫婦そろって金銀獲

得という結果を得ることができ、たいへんうれしく思い出深い大会となりました。

もちろん、さまざまな大会への参加は、メダルだけが目的ではなく自分との戦いでもあると思います。日々の努力の成果が記録となって現れるので、反省にも励みにもなり、継続の原動力となっております。一方、結果だけに執着せず楽しむ気持ちで参加してみることも大切ではないかと思っています。特にこの「ねんりんピック」では、県を代表する入場行進や、何日も練習を重ねてこられたであろうオリンピックさながらの素晴らしいアトラクションの見物があり、選手気分を満喫できます。また、大会地の温かいおもてなしは、競技へのプレッシャーを和らげてくれます。今回少し残念だったのは、帰りの航空券の関係で観光ができなかったことです。早めに参加を決め、開催地周辺の観光もできれば、なお有意義な大会になることと思います。健康に気をつけて、今後も機会があれば、是非また夫婦そろってこの大会に出場したいと思っています。

最後になりましたが、社会福祉協議会の皆様やチームリーダーの行き届いたお世話により安心して行動できました。皆様の温かい心遣いに厚くお礼申し上げます。



五輪さながらの総合開会式をチームのメンバーとともに楽しんだ。
(後列右端)



60歳を超えてから夫婦で始めた水泳。次の大会にも闘志を燃やす。



水泳 平泳ぎ 25 m、50 m

ともむらみつお

友村光男さん 66歳 ●参加歴：3回目

先輩の激励を胸に、2種目で優勝の快挙

感動、勇気、元気をもらった、ねんりんピックの総合開会式。アトラクションの竿燈まつりは、風の中で竿燈を、手のひら、額、肩、腰へと自在に操る姿に酔いしれながら、明日からの競技に向け、一段と気持ちが引き締まりました。

ねんりんピックには今回で3回目の出場となります。高校生から始めた水泳も50代の時に2度の病いで入院、手術をしてから、復帰は無理と自分で決めていました。しかし、定年後、たいへんお世話になった前田新維先輩から「また一緒に水泳やろうよ」とお声をかけていただき、大丈夫だろうか不安はありましたが、10年間のブランクを経て5年前から選手として復帰しました（現役時代とは体型が変わりましたが笑）。

水泳交流大会に向けて、島根スイミングスクール江津のクラブで仲間と週3～4回、練習してきました。65歳～69歳の区分で平泳ぎ50mと25mに出場。今回のウォーミングアップは「スタートが遅い」と妻のアドバイスを受け、

スタートダッシュ（水深、浮き上がり）を繰り返し練習してレースに臨みました。

ねんりんピックの選手紹介は日本選手権に負けないくらいの演出で、入場するときの笑顔、恥ずかしさ、うれしさ、どきどき——こんな雰囲気味わえる水泳競技が私は好きです。結果は、50mを37秒95で泳ぎ優勝。2日目は、会場で同じユニフォームの姿を見て笑顔に。県の役員、石原さんたちが応援に来てくださっていたのです。表彰式の写真まで撮っていただき感謝、感謝でした。25mも17秒45で優勝。今回2種目優勝という嬉しい結果を残すことができたのは、声をかけてもらった先輩のおかげです。4年前に亡くなられましたが、「練習やらんと、勝てないよ」と、いつも励ましていただきました。島根県の水泳出場選手は1名のみで、リレー競技に参加できなくて残念でしたが、これからもこの経験を胸に泳ぎ続けたいと思います。

大会終了後、妻とレンタカーで男鹿温泉郷、秋田八幡平温泉郷、乳頭温泉郷、玉川温泉と温泉巡りをして、帰路に就きました。

秋田県の方々のおもてなし、また選手派遣に関わる事務局の方々のご配慮、応援に夫婦ともども感謝しております。



出場した2種目で見事優勝。表彰台では金メダルを掲げて満面の笑顔。



妻のアドバイスを受けて、スタートダッシュの練習を積み重ねた。（第4コース）



ペタンク 「パインヒル」 チーム

まつもときょうこ

松本京子さん 61歳 ●参加歴：1回目

チームメイトに支えられて初舞台で優勝

4年前に同じ職場の方から偶然ペタンク競技に誘われ、私も始めました。初めは、ペタンクなんて簡単とあなどっていたのですが、なかなか奥深い競技ですっかりのめり込みました。自分の身体をうまく使ってイメージ通りに投球することは滅多にできないのですが、できた時の爽快感はなんとも言えません。ペタンクは1チーム3名です。個人の技術だけでなく、地面、戦略で結果が大きく左右されます。週2回、頭と身体を使い、楽しい仲間と過ごす練習時間は、日頃のストレスを忘れられる有意義な時間です。

今年初めて、ねんりんピックの参加資格を満たしたので県予選に参加したところ、なぜか優勝してしまいました。まさか優勝？ 秋田？ 考えてもいなかったことでしたが、チームメイトで相談して全国大会の参加を決めました。初めての全国大会！ 盛大な開会式！ 圧倒され

て舞い上がって、だんだん不安になってきました。私が一番の初心者なので、足を引っ張ってはいけない、引っ張ったらどうしようと「悩みと緊張の渦」に迷い込んでしまったのです。そんな私を見て、ベテランのチームメイトや同宿になった県外チームの方から「あなたの今できることをしなさい。実力以上のことはできない」と助言され、心構えを教えていただき、私も納得して、落ち着きました。競技が開始されると、予選3試合、決勝4試合の7試合をあれよあれよという間に勝ち抜いて、まさかの優勝をしてしまいました。優勝なんて考えてもいなかったことで、本当にうれしかったです。私の実力と言いたいところですが、チームメイトの指示を聞いて、それに集中できたことで、普段以上の力を引き出してもらいました。

60代になってワクワクすることも減ったように思うのですが、「うまくなりたい」「がんばろう」「楽しい」という気持ちをペタンクが思い出させてくれます。老若男女、誰でもハンディなくできるのがペタンクの魅力です。この体験談

を読まれ、やってみようかなと思われた方、是非一緒にやりましょう。ご連絡お待ちしています。



初出場で見事優勝。表彰式では湯上市の藤原市長とともに記念撮影(右)



チームメイトと作戦を練りながら試合に挑む。



マラソン 3km

もり やよい
森 弥生さん 66歳 ●参加歴：2回目

生涯、現役ランナーを目指して走り続けたい

「ねんりんピック秋田2017」のマラソン交流大会3km（70歳未満女子の部）に出場しました。この大会は、やまぐち大会に続き2回目の参加となります。

徳島県庁で飯泉嘉門知事をはじめ多くの方々から激励の言葉をいただき、徳島県のユニフォーム姿でバスに乗り込み出発です。飛行機・新幹線を乗り継ぎ秋田県へ、最初の宿泊先の田沢湖畔のホテルに着いたのは夜でした。

翌日、総合開会式に参加するため秋田県立中央公園県営陸上競技場へバスで移動、式典はスムーズに行われました。秋田まごころ KIDS の可愛いおもてなしや、お出迎えコーナーの秋田犬など歓迎ムードであふれていました。開会式終了後はマラソン会場の鹿角市へ再びバスで移動です。

大会当日は、天候があやしく予報どおりパラパラと雨が降り出しました。その後、雨は本降りとなり雷が鳴り始め、竜巻注意報まで発令されました。開催が危ぶまれ、担当者から開催されるかどうか検討中という説明を受けました。私の「晴れ女伝説」もこれまでのようです。ところが、バスが会場に近づくとつれて雨は小降りとなり、なんと最後には雨が止みました。竜巻の心配もなくなり、うす

日まで差してきました。「晴れ女」健在です。

さあ、いよいよスタートです。コースは坂道ばかりで「上っては下る」の繰り返しです。これが、ねんりんピックのコースかと思うほど厳しいものでした。私が2回目の坂道に苦戦していると、82歳のマラソン世界記録保持者、中野陽子さん（東京都）にスーッと抜かれました。ついて行こうとしましたが、彼女は私を置き去りにし風のように走り去りました。どんなことがあっても、徳島県のために入賞しなくてはいけないという思いで走っていました。ラスト350mで一人抜き、150mでもう一人抜いてゴールしました。結果は前回同様の5位でした。どうにか入賞できましたが、順位も記録も不満足なものでした。

ねんりんピック終了後、私は和歌山で開催された国際・第38回全日本マスターズ陸上競技選手権大会に出場しました。今後こそはという気持ちで臨み、W65（65歳～69歳）のクラスで、400m優勝、200m3位という成績を残すことができました。ねんりんピックでの悔しさが、大きなバネになったようです。

これからも、多くの先輩ランナーたちを見習い、死ぬまで現役ランナーとして、走り続けたいものです。



5位で入賞するも結果に満足せず、後日マスターズ陸上で好成績を残した。



軟式野球 「国府球友クラブ」チーム

やぎかずお
八木一夫さん 70歳 ●参加歴：1回目

投手力とチームワークで優勝を勝ち取る

我がチーム「国府球友クラブ」は、秋田県北部・藤里町の清水岱公園野球場において、第1回戦で地元チーム「藤里クラブ」と対戦しました。アウェーの中、我がチームの特長である投手力とチームワークで勝利を取ることができました。試合後は、藤里町役場の方の案内で世界遺産・白神山地を散策し、明日の試合に向けて英気を養いました。その夜は、地元主催の交流会が開かれ、地域住民による駒踊りの熱演に大会参加の6チーム全員が感動しました。我がチームも有志による阿波踊りを披露し、大喝采を受けました。もちろん、スタチのPRも忘れません。

翌日の第2回戦の山形県チームとの対戦では、お互いに投手力が高いので接戦が予想されましたが、我がチームの8番打者（投手）の一撃で流れを引き寄せ圧勝し、決勝戦に進むことができました。試合後は、地元ボランティアの方々へのお礼に阿波踊り指導を行い、たいへん喜ば

れました。また、地元の女性による秋田民謡を聞かせていただき、交流が広がりました。

決勝戦では岡山県チームを破り、優勝の栄冠を勝ち取ることができました。監督はもとより、選手一同感激に浸りました。大会を通じて、地元関係者から受けた数々のご配慮、おもてなしをたいへんありがたく思いました。また、交流も深まり、思い出に残る大会となりました。

「国府球友クラブ」は、全国生涯野球大会や還暦交流大会などで優勝経験がありますが、新たに「ねんりんピック」の優勝という栄冠を重ねることができました。このことを今後の励みとし、監督はじめ選手一同、野球人として、さらにながらいたいと思います。

最後になりましたが、参加の機会を与えてくださいましたとくしま“あい”ランド推進協議会並びに関係者の方々に、深く感謝しております。



優勝の栄誉とともに、地元の人たちとの交流も良い思い出に。(2列目右端)



持ち前の投手力が勝利を引き寄せた。



卓球 「うどん県さぬき」チーム

すぎむらのりこ

杉村 範子さん 63歳 ●参加歴：2回目

笑顔と感動いっぱいの「ねんりんピック」

卓球交流大会には香川県から6名が参加しました。秋田空港に到着した時から帰路に就くまで、さまざまな方との交流に笑顔が絶えませんでした。空港での歓迎やお食事処でのなまはげとの出会い、若者との讃岐弁と秋田弁でのやりとりも印象的でした。また、小学生が描いた讃岐うどんの絵ののぼりの前で写真を撮ろうとすると、地元の方が進んで声をかけてくれました。

翌日は、総合開会式があり、私は入場行進で香川県チームのアピールを担当し、「讃岐うどんのような粘りと腰で頑張ります」とアナウンスしました。それが交流大会で実現しました。

横手市での卓球交流大会（ラージボール）の団体戦の方式は、1番70才以上の女子・2番70才以上の男子・3番65才以上のミックスダブルス・4番60才以上の女子・5番60才以上の男子で、3試合取ったチームの勝ちです。

ぜひとも1位決勝トーナメントに進みたいと思っていましたが、試練は早くも1次予選に訪れました。2対2からの最終戦の勝負になり、3ゲームともデュースで最後に挽回して勝利し

ました。

そして、これに勝つと1位決勝トーナメントに出られるという2次予選のとき、興奮と感動の結果が待っていました。これも最終戦、1ゲームオールからの第3ゲーム2-8からの挽回劇です。あと3点取られたら負けというところから6点取り、8-8、8-10、10-10、12-10と粘り勝ちました。負けが頭によぎりながらも、「まだいける。頑張れ」と力の限り応援しました。最後の最後で挽回勝利したときは、みんな歓喜の涙を流しながら万歳をしました。あきらめないで粘り強くプレーすることの大切さをあらためて感じました。結果、決勝トーナメントに進出してベスト8になり、優秀賞をいただきました。

卓球交流大会での最年長参加者は95歳。80歳以上の方も20人以上いらっしゃいました。すばらしいと思いました。

帰ってから、自分の試合の動画を見たところ、連続してスマッシュを打ったとき、太りすぎのためか、肩で息をしていました。試合には勝ちましたが、これではいけないと反省しました。

私にとって卓球は生涯の友です。80歳を過ぎても卓球を続けられるように、健康に気をつけ、仲間とともに笑顔で練習に励んでいます。



あきらめず、粘り強いプレーが勝利を呼び込んだ。



2次予選、挽回勝利の後で。全員で勝ち取ったベスト8。(前列右)



ペタンク 「観音寺豊田りんどう」チーム

よこやま こ
横山リウ子さん 71歳 ●参加歴：1回目

ペタンクで、生き甲斐見つけ楽しい老後

2017年9月9日から、念願の「ねんりんピック秋田2017」が開幕しました。観音寺豊田ペタンク同好会は、男女合わせて50数名います。朝に夕にと日々練習に励んでいます。気の合う仲間同士で世間話に花を咲かせながらの練習です。これも、元気であることと家族の理解があればこそと感謝しております。

私たち「観音寺豊田りんどう」チーム3名は9月8日に出発しました。新幹線を乗り継ぎ秋田まで長い道のりでしたが、それぞれの種目メンバーの皆様とおしゃべりしながらの旅。秋田駅では、なまはげや地元の方々が旗を持って歓迎ムード一色でした。

そして、9月9日は総合開会式です。香川県担当の秋田まごころ KIDS から手書きの応援横断幕をプレゼントされ、いよいよ入場行進です。ねんりんピックとはいえ、自分の中ではオリンピックの祭典です。アトラクションの竿燈まつり、日本一の大太鼓等々、初めて参加する私たちは感激で胸が躍りました。あの時の光景は忘

れることなく目に、心に焼きついています。

9月10日、潟上市のペタンク試合会場へバスで向かう道中、雲行きが怪しくなり心配していたのですが、案の定、バスを降りた時にはドシャブリ！ でも、試合開始時間まで30分くらいあったでしょうか……何と奇跡が起こり、徐々に雨が上がり晴れ間が広がってきました。グラウンドもよいコンディションとなりひと安心！ いよいよ試合開始です。

初戦は北九州市との対戦。相手にリードされ焦りましたが、心の中では、まだいけるまだいけると思っていました。その後は順調に勝ち進み、いいところまでいったのですが、残念ながら決勝トーナメントで神奈川県に負けてしまいました。それでも67チーム中8位で上位優秀賞のメダルを獲得。このような大きな大会に出られたことにメンバー全員も満足です。

会場では地元の方から飲み物や果物など心温まるおもてなしをしていただきました。ペタンク競技担当の地元スタッフの皆様、かがわ健康福祉機構長寿社会部の職員の方にも大変お世話になり、心からの感謝と御礼を申し上げます。生涯のいい思い出となりました。



チームで力を合わせてベスト8を手にした。(中央)



緊張の初戦。リードされるも無事に勝利。(右端)



囲碁

やまねしげのり

山根 繁徳さん 69歳 ●参加歴：1回目

囲碁は人生の友、若者にも魅力を普及したい

広島市の老人連合会の囲碁大会で準優勝したおかげで、思いがけず秋田でのねんりんピックに初出場する機会を得た。

秋田には新幹線を乗り継いで、1日ばかりでやっとたどり着いたが、開催地の県民総ぐるみの意欲的なもてなしぶりには感心した。2日目には、全体の開会式の後、部門ごとの開会式も開かれたのだが、その会場で、不注意にも座席に眼鏡を置き忘れたことに後から気がついた。翌日、別の囲碁の競技会場で、係の人に相談すると、快く電話で連絡をとり、探してわざわざ送り届けていただいた。自分で取りに伺うつもりでいたので恐縮した。

3日目の大会本番では、出だし良く順調に2勝した。ところが、最終日午前の1局を時間切れで落としてしまい、その後の昼食は喉を通らなかった。結局3勝1敗で優秀賞のメダルを獲得できたのは望外の喜びであった。他県の参加選手の中には、対戦相手に地元の名物をお土産として手渡

したり、一緒に記念写真に納まったりする人もいて、対局場の雰囲気は和やかであった。

囲碁のルールは高校時代に覚えたが、本格的にのめりこんだのは、教員になってからである。初任地の高校に有段者の打ち手がいて、宿直室で毎日指導を受けた。それ以来50年近く、囲碁は人生の友であり、切っても切れない強く深いつながりを持ち続けてきた。最後に勤務した女子高校でも、囲碁部を創設して全国大会に部員を引率した。今でも囲碁を続けてくれている元部員たちと碁会所で再会するのは、この上ない喜びである。退職後の今も、公民館や集会所で同好の老人たちと楽しく盤を囲んでいるが、若い人たちにもっと囲碁の楽しさを知ってほしいと思い、ボランティアとして小学生相手に普及活動もしている。囲碁が好きだった父親は、友人と碁を打って帰宅した晩に、心臓発作で急死したが、あやかりたいものだと思っている。

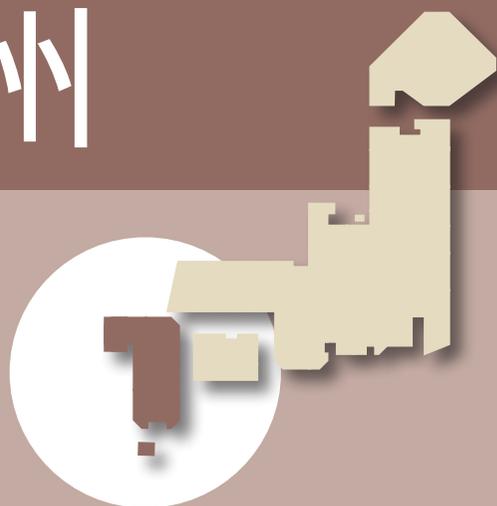


3勝1敗で優秀賞のメダルを獲得。対局場は和やかな雰囲気だった。



会場玄関前で広島市のチームメンバーと。(左)

九州



長崎県

宮崎徳康さん



ゲートボール

60

熊本県

橋本和香美さん



弓道

61

宮崎県

内田雅實さん



ソフトバレーボール

62

沖米田 孝さん



軟式野球

63



ゲートボール 「西海大島X」チーム

みやざきのりやす

宮崎 徳康 さん 62歳 ● 参加歴：1回目

秋田の空 — 天気の移り変わりとチームの成績

9月8日——長崎空港目指し「さあ！出発」。天気は快晴でチームの門出を祝うかのよう。羽田空港で飛行機を乗り継ぎ、大館能代空港に到着した。バスに乗り込みホテルに到着した時には辺りは薄暗くなっていた。明日の打ち合わせと団結の意味で、一部屋に集合し、移動のお疲れさん会を兼ねた作戦会議を行う。午後9時頃？地震（震度5.3）。全員一緒だったので「揺れたネ！」と結構落ち着いた状況であった。

9月9日——開会式会場へ向かう。天気は快晴。入場行進が始まるのを待つ。総勢1万人以上だろう、壮大ではあるだろうが、年配者や膝の調子が悪いメンバーもいるため、暑いのを我慢し待つ間の体調が心配であった。開会式は秋田の郷土芸能他、趣向を凝らしたもののばかりで、目を奪われているうちに時間が過ぎていた。

9月10日——『いざ！決戦』秋田は今日も快晴。1試合目「とにかく先手必勝」と若手のメンバーで臨んだ。立ち上がりから優勢に進み快勝。2試合目、控えに廻ったベテランに入れ替えた。順当に試合を進め快勝した。チーム最年長、81歳の選手も120%の出来栄えて「いい冥途の土産ができた」と顔をくしゃくしゃにしていたのがチームの士気をさらに高めた。

9月11日——今日は晴れてはいるものの雲が広がりつつあった。3試合目は、主将と主力選手が控えにまわった。この試合に負けても、決勝トーナメントに進出できることが確実だったため、以降の選手の負

担を軽減する作戦であった。ところが想定以上の結果が生まれた。競技時間を調整する余裕をもって、なんと25-5。この大会2度目のパーフェクトを達成。予選3試合の結果は3戦全勝、トーナメント進出。チーム成績はトップであった。

決勝トーナメント。開始早々からミスがでた。これまでの3試合には全くなかったミスである。それでも徐々に挽回し、一発逆転のチャンスもあったのだが、生かせず8-10で惜敗した。しかし、全員全力を尽くした。後悔はないが、反省すべき点は多々ある。これを機に課題をすべて解消し、次の和歌山で「倍返し」、チームワークをさらに強化し精進したい。

9月12日——私の悔し涙を隠すには十分すぎるほどの雨。天気の移り変わりが、この大会におけるチームの成績に連動しているように思えてならなかった。最後に、私の持論である「自分に負けるな！」という言葉をこれからのチームのメンバーに贈ります。



チームの全員で。(左から3人目)



弓道

はしもと わ か み

橋本和香美さん 61歳 ●参加歴：1回目

年の差フレンズ — 35歳年上のチームメイト

「えっ、大丈夫!？」

96歳の甲斐さんが参加すると聞き、私たちは顔を見合わせた。熊本から秋田まで、大変な長旅である。果たして無事に行き着くのだろうか……。

そんな心配を胸に、私たちは甲斐さんの荷物を持ち、手を引き、秋田へ出発した。

私と甲斐さんが仲良くなったのは、2日目の朝のことだった。朝食会場から部屋への帰り方がわからないという甲斐さんに、私は手をさしだした。すると、甲斐さんは、私の手をギュッと握った。私は、思わず「お手てつないで」と歌いだした。すると甲斐さんも「野道を行けば」と唱和してくれた。それから二人は大きな声で歌い、手を振りながら部屋までもどった。何とも楽しく、心弾む時間であった。

弓道競技の開会式では、甲斐さんが最高齢者賞、清永さん89歳が高齢者賞、大塚さんが市特別賞と、3人が表彰され、トロフィー2本、新米70kgをゲット。競技では、予選敗退だったものの、賞品の量では、断然トップだったことだろう。

長い待ち時間、いろいろな話をしながら親睦を深めた。甲斐さんの話を聞いて、私たちは思い違いをしていたことに気づかされた。甲斐さんは、毎朝1時間ウォーキングをした後、自宅の弓道場で弓を引き、ラジオ体操をして朝食をとるといふ。私よりずっと健康的で健脚なのだ。しかし、「ねんりんピックは、昼寝ができんところが、きつかなあ」と、辛そうに顔をしかめるのを、メンバーは見逃さなかった。次の日、控え席

の横にマットが敷かれ、甲斐さんのお昼寝コーナーが作られていた。

甲斐さんが健脚だとわかって、私たちは甲斐さんと手をつなぎ、腕を組んで歩いた。ただし、大股で元気よく。

会場でいただいた和タオルに「年の差フレンズ」という文字とイラストが描かれていた。私と甲斐さんは、年の差35歳。清永さんとは27歳。まさに年の差フレンズだ。お二人を見ていると、年を重ねるのもいいもんだと思えてくる。小さなことにこだわらず、失敗も笑って楽しむ。若い者の手助けは喜んで受け取り、知恵と経験を伝える。さすが「ねんりんピック」に参加する人たちである。

先日、試合で甲斐さんとお会いした。甲斐さんは満面の笑みを浮かべ言った。「来年のねんりんピックにも参加するけん、橋本さんも、一緒に和歌山に行くバイ！」

私は答えた。

「はい！ もちろんです。私たち年の差フレンズですから」



結果は予選敗退と残念だったが、チームでたくさんの賞品を獲得。
(右から2人目)



ソフトバレーボール 「ミックス」チーム

うちだまさみ

内田 雅實さん 68歳 ●参加歴：2回目

2回目の参加で初入賞

山口県で最後の単身赴任が終わり、帰県しようとした時に元職場のバレー部の後輩から「ソフトバレーボールを一緒にしましょう」と、声を掛けられました。昔は若く引き締まっていた筋肉も、この歳になると日本一の宮崎牛のような霜降り状態に変わっており、「どげんかせんといかん」と思った私は、10年以上のブランクがあるにもかかわらず仲間に入れてもらいました。

練習するに当たり、目標として、①市・郡内での上位入賞、②九州ブロック大会への出場、③ねんりんピックへの出場を掲げました。入部2年目にして九州ブロック大会（佐世保）、4年目にも九州ブロック大会（那覇）、5年目で最高目標である「ねんりんピックおいでませ！山口2015」に参加することができました。ただし、やまぐち大会での成績は、3位グループの3位と全く実力を出せず不満の結果でした。我々のチームは身長が低いので、相手チームのブロックを避けるために速い攻撃パターンの練習をして、再度ねんりんピック県予選に臨みました。いつの試合も楽しんで勝ったことはありませんが、

「ねんりんピック秋田2017」の出場を決めることができました。

あきた大会での成績は、名古屋市チームを破り、地元秋田県チームに敗れて、2位グループで決勝リーグに進みました。決勝リーグでは、初戦で埼玉県を破り、2試合目は見るからに強そうな広島市に苦戦の末フルセットで勝利。2位グループの1位として優秀賞をいただくことができました。和気あいあいとソフトバレーボールを楽しむミックスメンバーの良いところが出た強さと思っています。2度のねんりんピックに参加した経験から、どのチームとも互角の戦いです。些細なミスで上位チームに入れられないということです。これを肝に銘じて体力、気力の続く限りソフトバレーボールを続け、練習に励みたいと思います。

大会参加にあたり、秋田県の方々、ソフトバレーボール競技役員の方々、宮崎県社会福祉協議会の皆さま、特に2カ所の競技会場を掛け持ちで、お世話、応援してくれた担当の方、大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました。



いつも和気あいあいとプレイを楽しむチームメンバー。(左から3人目)



2位グループの1位、優秀賞を受賞。「やったー！」(受賞者)



軟式野球 「延岡還暦野球クラブ」チーム

おきよねだ たかし

沖米田 孝さん 70歳 ●参加歴：1回目

秋田県、八峰町の皆様に感謝！

日一日と大会が近づく中、選手のメンバー調整に不安を抱きながら当日を迎えることになりました。

宮崎空港での結団・出発式を終え、秋田へ向け出発。東京での乗り継ぎ等に時間を要し、秋田駅には暗くなった18時頃着きました。一日がかりの移動に、改めて日本列島の広さを感じさせられました。

ホテルに到着すると、早速宮崎県選手団の交流会があり、他種目の選手たちと和やかに交流。盛会のうちに終了し、部屋でメンバーと酒を飲みながら和んでいたところ、突然震度5弱の地震があって、先行きを不安に感じました。

総合開会式当日は快晴。会場に到着してまず驚いたのが1万4000人という参加選手の多さです。そして、誘導やきめ細やかな案内、それに秋田県の市町村の各ブースにおける紹介やサービスにも主催者側の温かい気遣いが感じられました。総合開会式も素晴らしかったですが、アトラクションにおける秋田県の四季のイベント等、私たちにとっては全く気候や風土も違う

未知の世界で、感動しながら拝見させていただきました。

試合は能代市を主会場に八峰町と藤里町の2会場で行われ、成績は1勝1敗でした。我がチームは全国でも歴史が古く、全国優勝の実績もあり、今回も当然ながら優勝を目指しておりました。しかし、絶対的エースである松田選手が仕事の都合で帰ることになり、本戦で投げられず、結果的に大敗をしてしまいました。それが心残りです。

試合会場のあった八峰町では、町長をはじめ、町を挙げての歓迎レセプションがあり、温かいおもてなしや試合会場での接待等、歓待を受け感激しました。日程の都合で観光の時間こそとれませんでした。毎年、能代市において開催される夏の終わりのおなごり祭りに出会え、秋田の竿燈まつりや青森のねぶた、それに岩手の盛岡さんさ踊り等、東北地方の夏祭りが一堂に見られたことが本当に幸運でした。また、秋田県民の温かい人情と、宮崎県の風土とは全く違う車窓からの風景に触れ、参加して良かったと強く感じました。

軟式野球は、23年ぶりの開催でしたが、また是非とも出場したいと思っています。宮崎県の役員や関係者の皆さまには大変お世話になりました。



目標の優勝は逃したが、笑顔で集合写真。(前列左から2人目)



バッターボックスにて、「ホームラン!？」と思った瞬間。

Information



ねんりんピックとは

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は60歳以上の方々を中心として、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることができる健康と福祉の総合的な祭典です。

ねんりんピックは厚生省創立50周年を記念して昭和63年(1988年)の第1回ひょうご大会以来毎年開催されています。

卓球、テニス、囲碁、俳句などの交流大会や美術展、音楽文化祭、健康福祉機器展などのさまざまなイベントを通じて、地域や世代を超えて参加者の交流の輪が全国に広がっています。

「ねんりんピック秋田 2017」大会情報

平成29年9月9日から12日の4日間、「秋田からつなぐれ！つらなれ！長寿の輪」をテーマにねんりんピック秋田2017が開催されました。あきた大会では13市3町1村で26種目の交流大会が開かれ、全国から集まった約1万人の選手が日ごろの成果を発揮しました。

■ 動画配信

ねんりんピックの大会の様態を動画でご覧いただけます。(過去の大会についても動画を配信しております。大会動画配信ページのリンクからぜひご覧ください。)

<http://www.nenrinpic.com/akita2017/> (あきた大会)

■ 最高齢者 (あきた大会公式記録集より)

性別	種目	所属	年齢
男性	弓道	熊本県	96
女性	水泳	秋田県	91

開催種目・平均年齢（あきた大会公式記録集より）

競技種目	開催市町	参加チーム数	参加者数	平均年齢
卓球	横手市	70	493	70.0
テニス	秋田市	72	447	67.9
ソフトテニス	大館市	65	406	67.2
ソフトボール	由利本荘市	65	935	66.8
ゲートボール	大館市	141	795	75.8
ペタンク	潟上市	67	237	75.4
ゴルフ	秋田市	56	165	69.8
マラソン	鹿角市	—	262	70.3
弓道	秋田市	67	452	70.1
剣道	由利本荘市	67	387	66.9
水泳	秋田市	—	292	70.9
グランド・ゴルフ	大仙市	—	395	75.5
ラグビーフットボール	男鹿市	22	442	68.6
サッカー	秋田市 にかほ市	64	1,140	64.5
ソフトバレーボール	大館市	66	473	65.6
ウォークラリー	仙北市	41	205	71.5
太極拳	秋田市	59	415	68.7
軟式野球	能代市 藤里町 八峰町	26	372	67.4
ダンススポーツ	秋田市	50	390	67.9
マレットゴルフ	能代市 三種町	25	94	75.1
パークゴルフ	東成瀬村	34	133	71.7
ミニテニス	男鹿市	17	117	67.8
囲碁	能代市	62	168	73.5
将棋	大仙市	65	192	70.6
健康マーじゃん	北秋田市	68	271	73.1

※俳句交流大会を除く



ねんりんピックに参加するには

■ 選手として参加する

都道府県・政令指定都市ごとに選手団が結成されます。また、美術展でも60歳以上の方の作品募集を行っていますので、お住まいの都道府県・政令都市選手派遣団体へお問い合わせください。68ページから選手派遣団体の一覧をつけておりますので、ご活用ください。

■ イベントに参加する

総合開会式、総合閉会式、講演会、音楽文化祭などのイベントでは事前に入場者募集を行います。また、ふれあい広場をはじめ、どなたでもお楽しみいただけるイベントも数多く開催しますので、大会公式ホームページで情報を確認の上、ぜひご参加ください。

■ これからの開催地

大会会期	開催地
第31回（平成30年度）	富山県
第32回（平成31年度）	和歌山県
第33回（平成32年度）	岐阜県
第34回（平成33年度）	神奈川県
第35回（平成34年度）	愛媛県
第36回（平成35年度）	鳥取県

都道府県政令指定都市選手派遣団体

都道府県・政令指定都市	選手派遣団体・部署名	電話番号
北海道	(福) 北海道社会福祉協議会 北海道長寿社会推進センター	011-271-1574
札幌市	(一社) 札幌市老人クラブ連合会 高齢福祉課	011-614-0153
青森県	(福) 青森県すこやか福祉事業団 青森県長寿社会振興センター	017-777-6311
岩手県	(公財) いきいき岩手支援財団 総務・健康支援課	019-626-0196
宮城県	(福) 宮城県社会福祉協議会 人材養成部 いきがい健康課	022-223-1171
仙台市	(公財) 仙台市健康福祉事業団 シルバーセンター いきがい推進課	022-215-3170
秋田県	(公財) 秋田県長寿社会振興財団 企画・振興課	018-829-2888
山形県	(福) 山形県社会福祉協議会 地域福祉部	023-622-5805
福島県	(公財) 福島県老人クラブ連合会 事業課	024-523-2131
茨城県	(福) 茨城県社会福祉協議会 茨城わくわくセンター	029-243-8989
栃木県	(福) とちぎ健康福祉協会 事業部事業企画課	028-650-3366
群馬県	(公財) 群馬県長寿社会づくり財団 生きがい健康グループ	027-255-6511
埼玉県	(公財) いきいき埼玉 高齢者いきがい支援センター	048-728-7951
さいたま市	さいたま市 保健福祉局 福祉部高齢福祉課	048-829-1260
千葉県	(福) 千葉県社会福祉協議会 地域福祉推進部	043-245-2208



千葉市	千葉市 保健福祉局 高齢障害部高齢福祉課	043-245-5169
東京都	(公財) 東京都体育協会 事業部 生涯スポーツ課	03-6804-8122
神奈川県	(公社) かながわ福祉サービス振興会 明るい長寿社会づくり推進機構 かながわシニアフェスタ事務局	045-640-6128
横浜市	横浜市 健康福祉局 高齢健康福祉部高齢健康福祉課	045-671-2406
川崎市	川崎市 健康福祉局 長寿社会部 高齢者在宅サービス課	044-200-2651
相模原市	相模原市 保険高齢部 高齢政策課 計画推進班	042-769-8354
新潟県	(福) 新潟県社会福祉協議会 地域福祉課 新潟県長寿社会振興センター	025-285-1400
新潟市	新潟市 福祉部 高齢者支援課	025-226-1290
山梨県	(福) 山梨県社会福祉協議会 福祉振興課	055-254-8610
長野県	(公財) 長野県長寿社会開発センター	026-226-3741
富山県	(福) 富山県社会福祉協議会 富山県いきいき長寿センター	076-432-6010
石川県	(福) 石川県社会福祉協議会 長寿生きがいセンター	076-258-3135
福井県	(福) 福井県社会福祉協議会 福井県すこやか長寿センター	0776-24-2433
岐阜県	(公財) 岐阜県教育文化財団	058-233-8161
静岡県	(公財) しずおか健康長寿財団 健康増進生きがい推進課	054-253-4221
静岡市	静岡市 保健福祉局福祉部 高齢者福祉課	054-221-1086
浜松市	浜松市 社会福祉部 高齢者福祉課 生きがい調整グループ	053-457-2789

愛知県	(福) 愛知県社会福祉協議会 福祉生きがいセンター 長寿生きがい振興部	052-212-5521
名古屋市	名古屋市 健康福祉局 高齢福祉部 高齢福祉課	052-972-2542
三重県	(福) 三重県社会福祉協議会 福祉研修人材部	059-213-0533
滋賀県	(福) 滋賀県社会福祉協議会 滋賀県レイカディア振興センター	077-567-3900
京都府	(公財) 京都SKYセンター 活動支援課	075-241-0226
京都市	(一社) 京都市老人クラブ連合会	075-354-8744
大阪府	(一財) 大阪府地域福祉推進財団 事業振興課	06-4304-0294
大阪市	(一財) 大阪府地域福祉推進財団 事業振興課	06-4304-0294
堺市	(一財) 大阪府地域福祉推進財団 事業振興課	06-4304-0294
兵庫県	(公財) 兵庫県生きがい創造協会 生涯学習部	079-424-9832
神戸市	(公財) こうべ市民福祉振興協会 企画運営本部 事業推進課	078-743-8092
奈良県	(福) 奈良県社会福祉協議会 すこやか長寿センター	0744-29-0120
和歌山県	(福) 和歌山県社会福祉協議会 和歌山県いきいき長寿社会センター	073-435-5214
鳥取県	(福) 鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部 明るい長寿社会づくり推進事業担当	0857-59-6332
島根県	(福) 島根県社会福祉協議会 地域福祉部 長寿社会振興係	0852-32-5981
岡山県	(福) 岡山県社会福祉協議会 地域福祉部 長寿社会推進センター	086-226-2835
岡山市	(福) 岡山市社会福祉協議会 地域福祉課	086-225-4051
広島県	(福) 広島県社会福祉協議会 総務課	082-254-3481



広島市	(公財) 広島市文化財団 ひと・まちネットワーク部	082-541-5335
山口県	(福) 山口県社会福祉協議会 地域福祉部 山口県生涯現役推進センター	083-928-2385
徳島県	(公財) とくしま“あい”ランド推進協議会 業務第一課	088-655-5080
香川県	(公財) かがわ健康福祉機構 長寿社会部	087-863-0222
愛媛県	(福) 愛媛県社会福祉協議会 長寿社会振興センター	089-921-5140
高知県	(福) 高知県社会福祉協議会 福祉人材部 いきいきライフ推進課	088-844-9054
福岡県	(福) 福岡県社会福祉協議会 地域福祉部 共生社会推進課	092-584-3377
北九州市	北九州市 保健福祉局 地域福祉部 長寿社会対策課	093-582-2407
福岡市	(公財) 福岡市老人クラブ連合会 全国健康福祉祭参加事業福岡市実行委員会	092-713-1340
佐賀県	(公財) 佐賀県長寿社会振興財団 開発指導課	0952-31-4165
長崎県	(公財) 長崎県すこやか長寿財団 健康生きがい推進課	095-847-5212
熊本県	(一財) 熊本さわやか長寿財団 生きがい推進課	096-354-3083
熊本市	熊本市 健康福祉局 福祉部高齢介護福祉課	096-328-2347
大分県	(福) 大分県社会福祉協議会 市民活動支援部 長寿いきいき班	097-553-1150
宮崎県	(福) 宮崎県社会福祉協議会 安心生活部 長寿社会推進センター	0985-31-9630
鹿児島県	(福) 鹿児島県社会福祉協議会 長寿社会推進部	099-250-7441
沖縄県	(福) 沖縄県社会福祉協議会 沖縄県いきいき長寿センター	098-887-1344



一般財団法人 **長寿社会開発センター**